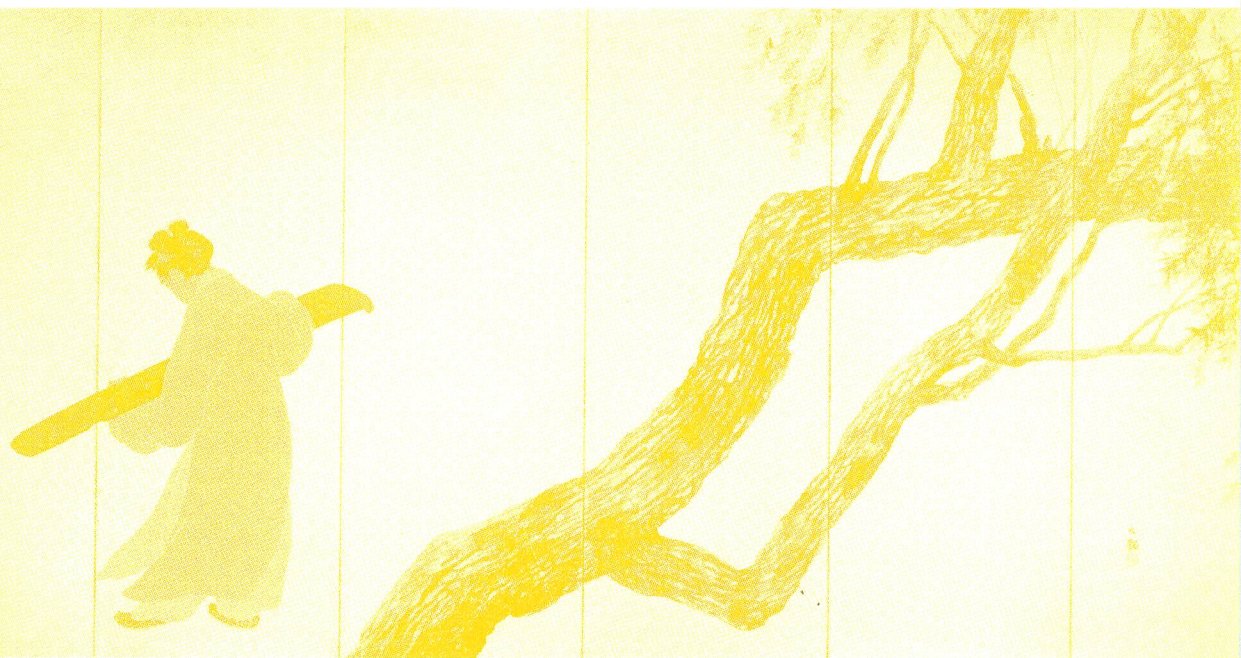


会 報

第29号

平成13年度



東京都立高等学校教頭会

会報第29号の発刊によせて

会長 相川 鞆彦

西暦では21世紀ということになる平成13年度を終えるに当たって、「会報」第29号を発刊する運びとなり、会員の皆様とともに喜びを分かち合えることを大変幸せに思っています。この会報は、本会の1年間の活動を記したもので、いわば本会の青史に刻まれ、長く記録として保存されていくものです。折にふれ、会員諸氏がご利用なされることを期待する次第です。

今年度は、昨年度までほぼ毎月、学区校長会、学区教頭会の名の下に、それぞれの学区の校長や教頭が所定日に集まり、連絡協議としていた会合が都教育委員会主催で校長連絡会、教頭連絡会として開催されることとなり、出席する場合の服務の取り扱いも定められた。それに伴い、校長協会や教頭会のその他の活動についても服務の取り扱いが改められた。わが教頭会では、学区教頭会は教頭連絡会終了後に開催されることとなり、学科教頭会は教頭連絡会と同一日での開催となった。役員会、総務部会、幹事会の出席については、年6日の範囲内での職免取得によることとなった。問題は、研究部会への出席であるが、わが教頭会の研究部会が都教育委員会から都の教育課題の検討の場として必要であると認められた場合は、出張によることも可能であった。研究部会で研究されたものの発表の場である、定通教頭会と共催で開催する教頭研究協議会、その開催準備のための運営役員会、運営委員会への出席も同様に出張によることが可能であった。そこで、定通教頭会長と共に、学務部高等学校教育課長、指導部主任指導主事の各先生に、研究部会、教頭研究協議会、運営役員会、運営委員会のいずれも、都の教育課題検討の場として必要なものとして認められるよう、要請を行った。しかし、今年度の各研究部会の研究課題は、都教育委員会から検討を委ねられたものではなく、それぞれの研究部会で主要な教育課題として設定したものであった。このため、人事部職員課でかなりな日数をかけて検討をしていただいたが、研究部会をはじめ、教頭会の四つの研究関係のいずれの会合も都教育委員会の課題検討の場として必要なものとは認められなかった。今後に期待したいと思っている。

今年度は、まだ学校運営連絡協議会が全都で全校実施された年度であった。5月11日と11月16日の2回、全教頭が一同に会しての連絡会が開催され、教職員以外による学校評価の実施に向けての協議が行われた。学校内での教頭の役割がいかに重要であるかが改めて明らかになったわけである。評価結果に基づく改善事項を実施に移していくのは次年度となるが、ここでも教頭が改善に向けて教職員を指導し、どう取り組ませるかにより、それぞれの学校における改革の行方が決まるといっても決して過言ではない。

今年度からの実施ではないが、学校運営組織に新たな職「主幹」の設置が決まったのも今年度であった。東京都立高等学校教頭会では、11月13、14の両日に開催された関東地区高等学校教頭研究協議会で、今年度の東京都の教育改革の最も重要なものの一つとして、同研究協議会に出席した関東地区の全教頭に情報提供をした。同研究協議会が開催された13日に新聞報道された、目指す像を掲げ、数値目標を設定し、その像の実現を目指し1年間経営するとともに、経営の結果を適切に評価し、その評価を翌年の経営に反映させていくマネジメントシステム、それを学校に適用したスクールプランを実施することも、最新情報として報告することができた。そのスクールプランも、全校でのものではないが、実施は今年度からであった。そのほか、全都、全校での授業公開の実施、学期毎の授業観察の実施等、今年度の改革を数え上げると、枚挙に暇がないほどである。また、教頭の管理職手当が2%アップして、15%になったのも今年度からであった。この会報は、これらのものが反映したものでありたい。

末筆ながら、ご指導をいただいています都教育委員会、校長協会等、関係の方々に深く頭を垂れさせていただきます。発刊のために執筆の労をとられた教頭会の関係各位や編集にご尽力をいただいた教頭会事務局の先生方にも厚く感謝申し上げます、発刊の挨拶といたします。

目 次

会長あいさつ（発刊によせて）

1. 教 頭 会 の あ ゆ み

1. 本会創立以前の教頭会	1
2. 会員数と会費の変遷	3
3. 本会のあゆみ	6
4. 本会のあゆみ一覧	9

2. 総 務 部 会 報 告

1. 本部の活動	13
2. 平成13年度予算	14
3. 平成13年度事業報告	16
4. 総会・懇談会	17
5. 幹事会	18
6. 総務部会	20
7. 特別委員会	22

3. 主 な 活 動 報 告

1. 全国高等学校教頭会	23
2. 都立高校教頭研究協議会	24

4. 学 区 別 支 部 教 頭 会 報 告

1. 第1学区高等教頭会	25
2. 第2学区高等教頭会	26
3. 第3学区高等教頭会	27
4. 第4学区高等教頭会	28
5. 第5学区高等教頭会	29
6. 第6学区高等教頭会	30
7. 第7学区高等教頭会	31
8. 第8学区高等教頭会	32
9. 第9学区高等教頭会	33
10. 第10学区高等教頭会	34
11. 島しょ地区高等教頭会	35

5. 学 科 別 支 部 教 頭 会 報 告

1. 普通科高等教頭会	36
2. 工業高等教頭会	37
3. 商業高等教頭会	38
4. 農業高等教頭会	40

6. 研 究 部 会 報 告

1. 管理運営研究部会	42
第1委員会（学校管理関係）	43
第2委員会（職務、待遇関係）	44
2. 高校教育研究部会	45
第1委員会（教育課程関係）	46
第2委員会（教育対策関係）	48
3. 生徒指導研究部会	49
第1委員会（生活指導関係）	50
第2委員会（教科外活動関係）	51

7. 会 員 異 動

会員異動	53
------	----

8. 編 集 後 記

56

1. 教頭会のあゆみ

1. 本会創立以前の教頭会

明治19年10月勅令65号「尋常師範学校官制」第3条「教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任し、学校長ノ監督ニ属シ、教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル」とあり、また昭和16年3月勅令第148号「国民学校令」で「学校長及び教頭ハ其ノ学校の訓導ノ中ヨリ之ヲ補ス、教頭ハ学校長ヲ補佐シ校務ヲ掌ル」と定めるなど、戦前は教頭職制度があった。その当時の教育制度は5年制の中学校・高等女学校・工業学校・商業学校・農業学校などに分かれていた。戦前の教頭会は関係の深い学校同志が校務連絡と親睦のため集まる程度の会はあったが教頭会としての組織化されたものはなかった。

戦後の昭和22年3月法律第26号「学校教育法」公布により、教頭職は法制的になくなったので、校長の命ずる校務分掌の一部とし名ばかりの教頭が存在していた。昭和30年都教委は、「校務主任」の制度を設け、教頭全員に「校務主任」の辞令を渡し、12月1日付で任命した。このようなことから普・工・商・農などの教頭会は規約をもうけるなどし、各々「校務主任会」を組

織、やや教頭会的活動を行うようになった。その後昭和38年に全都の高校で組織する本会を創設した。本会が創立する以前の教頭会の歴史は次の通りである。（昭和49年2月内山調）

東教会（普通科）

昭和12年創立。昭和38年本会の創立により、昭和38年発展的解散

昭和12年春、府立第7高女に府立高女全校の教頭10名が集り親睦と校務連絡を目的に会を創設した（故松岡忍岡高女教頭の日記より）。昭和18年に都政がしかれ、府立高女も市立高女も全都立高女と呼ばれるようになった。そのとき全都立高等女学校25校が忍岡高女に集り総会を開き組織を強化した。その後、戦争のため会は開けなかったが、昭和24年より開けるようになり、昭和30年頃より男子系高校の入会も増加し会は発展してきた。昭和32年に都立高校校務主任会が発足したがこれと並行して会は存続、昭和38年都立高校教頭会が創立したので昭和39年1月23日、南多摩高校で最後の総会を開き発展的解散した。

年 度	昭12年	昭13年	昭18校	昭 19 年	昭 24 年	昭 25 年
会 員 数	10校	10校	25校	25校	31校	35校
会 費	——	——	——	戦争のため昭和24年まで中断する	300円	300円
当番幹事校と会場	府立第7高女	昭14～17年 不明	忍 岡		駒場、富士、忍岡、足立	竹台、井草、千歳、鷺宮

昭 和 26 年	昭 和 27 年	昭28年	昭29年	昭 30 年	昭 31 年	昭 32 年
35校	35校	35校	38校	40校	42校	46校
300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円
八潮、市谷、紅葉川、明正	京橋、本所、台東、三田	不 明	不 明	豊島、玉川、桜町、深川	雪谷、武蔵、北野、大崎	南多摩、目黒、神代、江北

昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年	昭 38 年	昭 39 年
48校	50校	50校	60校	63校	63校	63校
300円	300円	300円	300円	300円	300円	300円
千歳丘、一橋、足立、荻窪	白鷗、南多摩、富士森、府中	竹早、本所、広尾、青山	志村、板橋、北多摩	不 明	不 明	不 明

会合は毎年5回を目標にし、4回は学校、1回は外部の会場を選んだ。

（昭和49年2月神藤調、昭和50年神藤訂正）

東京都立高等学校校務主任会（普通科）

昭和32年創立。昭和38年本会創立全校入会、その後普通科高校教頭会支部となる。

昭和32年1月17日駒場高校で普通科高校が集り、各学区から幹事を出し、その中から代表幹事をめきる組織で創立総会を行った。目的は親

睦と校務連絡が主なもので、第1回の総会と年2～3回の幹事会を行う程度の会であった。組織は普通科高校全体であるが、大島・三宅・八丈の島関係は未加入、昭和35年府中高、昭和38年は深沢・小岩・小平・南・大山の5校新設入会とし、86校となる。

年 度	昭 32 年	昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年
会 員 数	76校	76校	76校	77校	77校	77校
会 費	500円	500円	500円	500円	500円	500円
代 表 幹 事	鈴木 菊雄 (駒 場)	森本久次郎 (日比谷)	岸田 文男 (西)	渡辺 元 (板 橋)	細沼 清 (白 鷗)	田代清三郎 (両 国)

(昭和49年2月神藤、内山調、昭和50年2月神藤、内山訂正)

東京都立工業高等学校教頭会

昭和25年創立。昭和38年本会創立全校入会、その後工業高校教頭会支部となる。

はじめは校長会主催の教頭をねぎらう親睦の会であったが、昭和31年に校務主任会と名称を変え、会則を設けるなどし、会長と幹事3名で運営するようになり、昭和38年には幹事長と副

幹事長、幹事4名に変更され現在に至っている。組織は工業高校全校であるが、昭和31年共同実習所入会、昭和34年一橋工と羽田工が合併、同年烏山工新設、昭和38年は練馬・荒川・足立・葛西・田無・多摩・砧・杉並・町田・府中の新設10校、同年航空工廃止し、共同実習所を含めて29校となる。

年 度	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年	昭31年	昭32年	昭33年	昭34年
会員数	19校	19校	19校	19校	19校	19校	20校	20校	20校	20校
会 費	会場校の負担から必要に応じ徴収するようになる						500円	500円	500円	500円
備 考	校長会主催の会から教頭会に発展						都立工業高校校務主任会			

東京都立商業高等学校教頭会

創立は昭和26年頃らしい。昭和38年本会創立時に全校入会。その後商業高校教頭会支部となる。

はじめのうちは記録がないので不明であるが、

昭35年	昭36年	昭37年
20校	20校	20校
500円	500円	500円
都立工業高校校務主任会		

(昭和19年2月内山・遊佐調、昭和50年2月内山・元田訂正)

昭和32年に組織を強化し、幹事長制度を設け、年に数回の会合を行っている。

その後、昭和38年に四谷・赤羽の2校新設入会し、25校となった。

年 度	昭 32 年	昭 33 年	昭 34 年	昭 35 年	昭 36 年	昭 37 年
会員数	不 明					25校
会 費	不 明					1,000円
備 考	都立商業高校校務主任会					

(昭和49年2月八田調)

東京都立農業高等学校教頭会

昭和24年創立。昭和38年本会創立時に全校入会。その後農業高校教頭会支部となる。

はじめは記録がないので不明であるが、教頭の集まる会はあった。昭和30年に会則を設け、

持ち廻り幹事で運営していたが、昭和36年に幹事を2名に強化し、毎年6回の会合を行っている。会員数は昭和32年に農産高が独立、昭和36年大島・三宅・八丈の農業科3校入会、昭和40年瑞穂農芸高独立し、9校となる。

年 度	昭24年	昭25年	昭26年	昭27年	昭28年	昭29年	昭30年	昭31年	昭32年	昭33年
会員数	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	4校	5校
会 費	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	500円	500円	500円	500円
備 考	教頭の集まる会はあったが細部不明									

2. 会員数と会費の変遷

本会創立から現在まで、学校数・会員数・会費・新設校のあゆみを次の表にまとめた。

<変遷表について>

1. 本校が設立した昭和38年度は新設17校と廃校1校があるので125校から140校となった。
2. 昭和38年～昭和45年は普＋商・普＋農・本会＋分校・共同実習所など各々1校として入会、会員数は実際の学校数より多い。
3. 昭和38年大森高馬込分校（定）は南高として新設、同年代々木高（定）は3部制となり入会。

昭34年	昭35年	昭36年	昭37年
5校	5校	8校	8校
500円	500円	500円	500円
都立農業高校校務主任会			

（昭和49年2月池田調、昭和50年2月山本訂正）

4. 昭和40年浅草高（定）は東高（全）に変わり新設、昭和46年大島高差木地分校は大島南校に変わり新設。
5. 昭和44年秋川高、昭和48年大島南高に舎監長制度が新設され入会、昭和48年だけ世田谷工高は2人教頭であった。（昭和52年2月神藤・内山調、その後追加）

〔会員数と会費の一覧表〕

（昭和38年以降）

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和38年	140校	86人	28人	25人	8人	148人	—	500円	—	500円	深沢大 山 荒川工 練馬工 田無工 府中工 小岩 四谷商 杉並工 足立工 多摩工 小平 赤羽商 砧 工 葛西工 町田工 (計17校)	杉並共実 北多摩 三宅 代々木 五日市 八丈 赤坂 大島 (計8)
" 39	141	88	30	25	8	151	—	500	—	500	練馬 (計1校)	杉並共実 江東共実 代々木 赤坂 北多摩 五日市 浅草(定) 大島 三宅 (計10)
" 40	144	90	30	24	9	153	—	500	—	500	秋川 久留米 東 瑞穂農芸 (計4校)	杉並共実 江東共実 代々木 赤坂 北多摩 五日市 大島 三宅 (計9)
" 41	145	91	30	20	6	147	—	500	—	500	日野 (計1校)	杉並共実 江東共実 (計2)
" 42	146	92	29	20	6	147	—	1,000	—	1,000	羽田 (計1校)	杉並共実 (計1)

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入 会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校 名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和 43年	147	94	29	20	6	149	—	1,000	—	1,000	東村山 (計1校)	秋川 (舎監長) 杉並共実 (計2)
" 44	149	97	28	20	6	151	—	1,000	—	1,000	国分寺 小笠原 (計2校)	秋川 (舎監長) 差木地分校 (大島) (計2)
" 45	149	97	28	20	6	151	1,000	—	—	1,000	—— (な し)	前年に同じ (計2)
" 46	155	102	28	20	6	156	1,000	—	—	1,000	淵 江 福 生 新 島 東大和 忠 生 大島南 (計6校)	秋川 (舎監長) (計1)
" 47	161	108	28	20	6	162	1,000	—	—	1,000	片 倉 府中東 神 津 永 山 保 谷 芸 術 (計6校)	前年に同じ (計1)
" 48	164	112	29	20	6	167	9,000	—	—	9,000	葛西南 狛 江 清 瀬 (計3校)	秋川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 世田谷工 (2人制) (計3)
" 49	168	116	28	20	6	170	9,000	—	—	9,000	高 島 足立西 調布北 久留米西 (計4校)	秋川 (舎監長) 大島南 (舎監長) (計2)
" 50	172	120	28	20	6	174	9,000	—	2,000	11,000	水 元 府中西 武蔵村山 野津田 (計4校)	前年に同じ (計2)
" 51	177	125	28	20	6	179	9,000	—	5,000	14,000	光 丘 八王子東 青梅東 足立東 武蔵村山東 (計5校)	前年に同じ (計2)
" 52	184	132	28	20	6	186	9,000	—	5,000	14,000	青 井 調布南 稲 城 羽 村 篠 崎 小平西 秋留台 (計7校)	前年に同じ (計2)
" 53	191	139	28	20	6	193	9,000	—	6,000	15,000	蒲 田 八王子北 昭 島 大泉北 成 瀬 城 東 清瀬東 (計7校)	前年に同じ (計2)
" 54	196	144	28	20	6	198	9,000	—	6,000	15,000	永 福 足立新田 南 野 砂 川 武蔵野北 (計5校)	前年に同じ (計2)
" 55	202	150	28	20	6	204	9,000	—	6,000	15,000	大森東 大泉学園 館 小 川 日野台 小金井北 (計6校)	前年に同じ (計2)
" 56	202	152	28	20	6	206	9,000	—	6,000	15,000	田 柄 松ヶ谷 (計2校)	秋川 (舎監長) 大島南 (舎監長) (計2)
" 57	204	152	28	20	6	206	9,000	—	6,000	15,000	—— (な し)	前年に同じ (計2)
" 58	207	155	28	20	6	209	9,000	—	6,000	15,000	小平南 田 無 山 崎 (計3校)	前年に同じ (計2)
" 59	209	157	28	20	6	211	9,000	—	6,000	15,000	東大和南 東村山西 (計2校)	前年に同じ (計2)
" 60	210	159	28	20	6	213	11,300	—	6,000	15,000	南 平 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 (計3)
" 61	210	160	28	20	6	214	11,300	—	6,000	17,300	—— (な し)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 (計4)

年 度	学 校 数	会 員 数 (人)					年 会 費 (円)				新 設 高 校 名 ※ 募集停止校名 ○ 転科した高校名	1. 1校で2科や2名教頭などの入 会校名 2. 分校・共同実習所などの入会校 名
		普 通	工 業	商 業	農 業	計	都 費	私 費	個 人	計		
昭和 62年	210	160	28	20	6	214	11,300	—	6,000	17,300	— (な し)	前年に同じ (計4)
" 63	211	162	28	20	6	216	11,300	—	8,000	19,300	八王子高陵 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 国際 (開設) (計5)
平成 元	212	162	28	20	6	216	11,300	—	8,000	19,300	国 際 ※赤城台 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 (計4)
" 2	213	163	28	21	6	218	11,300	—	8,000	19,300	単位制 (計1校)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 単位制 (普・商) (計5)
" 3	212	162	28	21	6	217	11,300	—	8,000	19,300	単位制を新宿山吹と改称	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 紅葉川中央校舎 隅田川堤校舎 新宿山吹 (普・商) (計5)
" 4	212	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	※紅葉川中央校舎 ○赤 坂 (普→商) ○五日市 (普→商)	前年に同じ (計5)
" 5	212	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	— (な し)	前年に同じ (計5)
" 6	213	160	28	23	6	217	11,300	—	10,000	21,300	(公立学校開設)	秋 川 (舎監長) 大島南 (舎監長) 隅田川堤校舎、新宿山吹 (普・商) (計4)
" 7	214	161	28	23	6	218	11,300	—	10,000	21,300	※北 京橋、京橋南 飛鳥開設	前年に同じ (計4)
" 8	214	161	28	23	6	218	11,300	—	10,000	21,300	晴海総合高校開設 (計1校)	前年に同じ (計4)
" 9	211	159	28	22	6	215	11,300	—	10,000	21,300	— (な し)	前年に同じ (計4)
" 10	211	159	28	22	6	215	11,300	—	10,000	21,300	※江東工	前年に同じ (計4)
" 11	211	158	28	22	6	214	11,300	—	10,000	21,300	—	新宿山吹2名から1名となる
" 12	212	167	33	21	9	230	11,300	—	10,000	21,300	桐ヶ丘南工開設 ※羽田、城北	教頭複数配置校大幅増 (計18)
" 13	208	169	40	21	9	239	11,300	—	10,000	21,300	※明 正、墨田川堤、 桜水商、牛込商、 清瀬東 (英語コース) ○町田工 (機械・電気情報・ 工業化学→総合情報) 墨田工 (自動車科新設)	教頭複数配置校31校 (計31)

3. 本会のあゆみ

昭和32年度 12月：文部省は「学校教育法施行規則」を改正、第22条に教頭職を位置づけた。

昭和35年度 4月：都教委は「東京都公立学校の管理運営に関する規則」に教頭職を設け、「校務主任」を「教頭」に改め、辞令を渡した。

4月：文部省は教頭を「管理または監督の地位にある管理職手当支給対象」に入れた。都教委は教頭を管理職と位置づけ、はじめて管理職手当7%を支給した。

昭和37年度 38年1月：全国高等学校教頭会は、都立両国高校で創立総会を開催した。

昭和38年度 6月20日：都立高校校務主任会（普通科教頭会）と各職業高校校務主任会（各職業科教頭会）が合同し、「東京都立高等学校教頭会」が誕生した。当時の会員数は140校148人であった。

昭和39年度 40年1月：「ILO78号条約批准にともなう国内法の改正」により「人事院規則17-0」を改正した。都教委は管理職手当を8%に増額した。

昭和41年度 7月9日：文部省は教頭を正式に管理職の範囲に指定した。

昭和42年度 6月：都教委は教頭の管理職手当を10%に増額した。

昭和45年度：都教委は教頭の管理職手当を10%から15%に増額、教頭会に教育研究団体会費（都費）1校あたり1,000円の割で補助された。本会はこの年「全国高等学校教頭会」に正式加入し、本会会則の一部改正により、毎年交代制の代表幹事を、継続できる会長制に改め、組織を強化した。この年から東京都立高等学校教頭研究協議会が箱根三昧荘にて1泊2日で始まった。翌年からは2泊3日の研究協議会になった。

昭和46年度 5月：「教育職員の給与等に関する特別措置法」の公布があり、教諭に4%の教職調整額が支給された。

47年1月：都教委は教頭が教諭なので、管理職手当を15%から13%に減額し

た。

昭和47年度 「教頭職の法制化」を望む世論の高まりと共に教頭会意識も強まり、「親睦会的体質」から「活動できる体質」へ改善に着手した。役員組織、学区別・学科別支部教頭会、研究部会組織、継続活動のできる独立した事務局、これらの運営に必要な資金等を調査研究し、翌年度から3年計画で実施することにした。

昭和48年度 会則を変更し、活動のための細則を新設した。また、全国高等学校教頭会と協力し、事務所を新設した。本会は新役員組織と活動組織を新しくスタートさせ、本会の基礎となる大改革に着手した。都教委のご理解により、教育研究団体会費（都費）を1校1,000から9,000円に増額された。そのお陰で研究集録・会報の増刊号が刊行できた。

49年2月25日：法律第2号「教員の人材確保に関する特別措置法」の公布があり、教頭職の法制化を望む世論の高まりと共に教頭会の活動に期待をよせる声が高まった。本会は全国高等学校教頭会に協力し、教頭職法制化と教頭職1等級格付に全力をあげ活動した。

昭和49年度 6月1日：法律第70号「学校教育法の一部を改正する法律」の公布により、教頭職が法制化されたので、都教委は10月1日教頭に「教頭職」を命ずる辞令伝達式を挙行了した。

50年3月1日：法律第9号「一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律」が公布される。（昭和49年神藤、内山調）

昭和50年度 4月1日：都教委は教頭職の75%を1等級に昇格発令した。これで「3年計画」の3年目、永年の念願が法制上完成した。本会の活動のため、会則の一部改正と各種内規を設け、活動資金1名宛5,000円（個人負担）の特別会費を10月に臨時総会を開き決定した。「活動できる体質」改善3年計画は、全員一致協力のもとめでたく完了した。

12月：文部省は主任制度化のため学校教育法施行規則の改訂を公布した。

昭和51年度：石油ショックで、東京都立高等学校教頭研究協議会は宿泊研修を中止し、2日の日程で、都内実施となった。

昭和53年度 6月8日：総会で、特別会費5,000円から6,000円に改正された。

昭和55年度 5月22日：法律第57号改正「教頭定数法」が施行され、教諭定数内で扱われていた教頭は、正式定数と定められた。その給与は地方交付税制度により、保証が受けられる。

5月：事務局は渋谷区宇田川のアパートから、同区同玄坂の島田ビル4階へ移転した。

7月15日：東京都条例第71号改正給与条例の公布と、東京都教育委員会規則第29号「昇給等に関する規則」の改正により、本年4月1日付で、校長は特1等級、教頭は1等級に全員格付された。これは昭和52年12月21日「給与法の一部改正」の公布によるものである。

昭和57年度：創立20周年を迎え、3月4日「創立20周年記念号」を発行した。

昭和59年度 8月：臨時教育審議会設置法が公布された。

昭和60年度 6月13日：総会で教育研究団体会費（都費）1校あたり9,000円から11,300円へ改正され、通常会費が増額された。そのお陰で全日制・定時制合同の東京都立高等学校教頭研究協議会「研究協議会報告」創刊号が刊行できた。

昭和62年度：臨時教育審議会第3次答申（4月）と最終答申（8月）があった。これらに呼応して、研究部が中心となり、新しい時代の高校教育の改善と充実に務めていくことにした。

昭和63年度 5月：文部省は、初任者研修法を公布した。

6月9日：総会で、特別会費6,000円から8,000円に改正された。

平成2年度 9月：都教委は、校長・教頭・指導主事の任用制度を改正した。

3月1日：文部省は校長・教頭・永年勤続教諭に、期末・勤勉手当の傾斜配分加算率を通知した。

平成3年度 12月：文部省は生徒数急減のため、学級定員を45～40に学級編成基準を弾力化した。

平成4年度 6月23日：本会の30周年記念式典を挙行し、総会で、特別会費8,000円から10,000円に改正された。

9月：学校週5日制を目指し、月1回土曜日が休業日になる。これに対応するよう総務部が中心となり、各校の校内態勢整備に務めてきた。

（平成4年 赤津改訂）

平成6年度 4月：普通科等の学級編制が1学級40人となり、入学選抜制度が、グループ選抜から各学校単独選抜となった。この制度は平成6年度の入学者から適用された。また、今年度から、高等学校学習指導要領が改定され、各校新教育課程の実施が始まった。本教頭会では、平成元年度から研究部が中心になって、これに伴う研究を継続してきた。

6月：平成8年7月に行われる全国大会（東京大会）を主管するため、本会は企画委員会を発足させた。

12月：都教委は、全都立学校の校長及び教頭に、職務に関する目標と成果及び職務に関する希望を自己申告させ、それらを参考にして今年12月の期末手当から、勤勉手当へ成績率を導入し経過措置として人事管理の適正を図った。

平成7年度 5月：全国大会（東京大会）準備委員会が総務部を母体にして結成され、11月に団結式が行われた。

6月：都教委は教頭問題等検討委員会を設立し、教頭の職務・任用制度・表彰制度・再雇用制度等について検討を始めた。本会からは川島副会長がその担当となった。（平成7年 奥井追加）

平成8年度 4月・5月：「補欠募集要項」、「全日制間の転学」についての改正が行われた。

7月～11月：「教頭問題検討委員会報告」（平成8年3月）を受けて「校長及び教頭の任用に関する基準及び東京都教育委員会表彰実施要項の一部改正」（7月）、「教頭職務の明確化のための

規定整備について」（10月）、「校長・教頭業務実態調査について」（11月）、「東京都立学校事案決定規程の制定」（1月）等が相次いで出された。

7月23・24日：全国高等学校教頭会総会・研究協議大会が本会の主管で開催された。

10月：本会の研究部活動活性化に向けての「アンケート調査」が行われた。

1月25日：「これからの都立高校の在り方」についての答申が公表された。
平成9年度 6月：第15期中央教育審議会が（21世紀を展望したわが国の教育の在り方について）、審議のまとめを答申した。

7月：教育職員養成審議会第1次答申が提出された。

8月：教育改革プログラムの主な改訂点が公表された。

9月：都立高校の予算について、検討報告書（案）が提案された。

10月：都立高校改革推進計画の概要が公表され、向う10年間の長期計画が具体化されることになった。

本年度の特徴的な活動として、都教委（指導部）との協議（2回）、定通・事務長会との話し合いが持たれた。

3月：「都立学校あり方検討委員会報告書」が答申された。
平成10年度 6月：学校教育法の一部改正により、公立の中・高一貫校の設置が可能になった。都立高校では都立大学附属高校、三宅高校が発足する予定である。

7月：「東京都公立学校の管理運営に関する規則」の一部改正が行われた。

12月：東京都「教員の人事考課に関する研究会」より中間まとめが公表された。

3月：「高等学校学習指導要領」が公布された。

教頭会は都教委と本部役員との連絡会を2回開催し、諸課題について情報交換を行い、全教頭に周知徹底に努めた。

平成11年度 10月：都立高校改革・二次実施計画により、全日制23校、定時制17校が統合または再編成計画の対象として発表さ

れた。

12月：教員人事考課制度につき検討委員会報告が出され、平成12年度より実施されることとなった。

平成12年度 4月：教頭複数配置校が複数学科、工業・農業学科、単位制その他の高校を中心に15校増加された。従来からの舎監・分校を含め計18名となった。

同月：教員人事考課制度発足。

9月：全定教頭研究協議会が教育庁主催から全定教頭会の共催に変更された。教育予算削減等によるものであり、この会の意義については認識に変化なく引き続き教育庁の指導・支援を得ながら運営すべきことが確認された。

平成13年度 4月：教頭複数配置校が31校になる。都教委主催の教頭連絡会が発足。教頭会への出席の服務の取り扱いが、職免へと変更。教頭の管理職手当が15%になる。

6月：学校運営連絡協議会が全都で実施される。

10月：学校運営組織に「主幹」の設置が決定され、実施は平成15年度からとなる。



4. 本会のあゆみ一覧

本会運営は、昭和38年創立当初は幹事長制度、45年から会長制度、48年度には役員組織と部会組織の規定を設け、現在に至っている。

年 度	幹 事 長	総 会	刊 行 物
昭和38	内山（立 川）	創立総会、白鷗（－）	会員名簿（13P）
” 39	中馬（九 段）	総会、日比谷（－）	” （13P）
” 40	志村（玉 川）	” 白鷗（－）	” （13P）私費軽減（10P）
” 41	小笹（富 士）	” 教育会館（－）	” （13P）
” 42	鈴木（向 丘）	” 私学会館（80名）	” （13P）年間行事状況（4P）
” 43	岸野（足 立）	” 精養軒（90名）	” （13P）会報（4P）
” 44	池田（小松川）	” ” （90名）	” （13P） ” （4P）
” 45	青木（北 園）	” ” （90名）	” （13P）調査（5P） 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編）不明 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）不明
		全国高等学校教頭会に東京都全員入会	
” 46	青木（北 園）	総会 出版クラブ（90名）	会員名簿（13P） 高校生徒指導研究協議会発表要旨（都教委編）33P 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）40P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数（部長名）	刊 行 物
昭和 47	○神 藤（桜 町） 波多野（江東商）	な し	総会、青山会館（100名） 臨時総会、私学会館（80名） 常任幹事会 5回 体質改善計画立案と実施準備	な し 高校教頭研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）	会員名簿 15P 教頭勤務実態 10P 49P 40P
” 48	○若 林（東 ） 波多野（江東商） 内 山（烏山工）	○神 藤	総会、青山会館（110名） 臨時総会（90名） 総務部会14名 5回 「体質改善3年計画」初年度着手 全国教頭会事務局内に本会事務局 を設置	管理研 25名（安 部） 高校研 24名（西 村） 生徒研 23名（古 賀） 高校教頭研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編）	会員名簿 16P 会報創刊号 40P 研究集録創刊号 43P 67P 不明
” 46	○内 山（烏山工） 波多野（江東商） 安 部（北多摩）	○神 藤	総会、青山会館（100名） 総務部会18名 6回 全国大会運営委員会（22名） 全国大会（九段会館・都市センター）、	管理研 28名（吉 野） 高校研 24名（長 里） 生徒研 22名（古 賀） 高校教頭研究協議会発表要旨（都教委編） 高校生徒指導研究協議会研究集録（都教委編） 文部大臣特別出席	会員名簿 18P 会報第2号 58P 教頭職に関する調査・研究 25P 32P 48P 出席520名

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
昭和 50	○内 山 (烏山工) 千 野 (井 草) 石 坂 (小石川)	○神 藤	総会、出版クラブ (130名) 臨時総会、 " (85名) 総務部会19名 5回 教頭会「体質改善3年計画」完了	管理研 28名 (吉 野) 高校研 26名 (長 里) 生徒研 22名 (小 林) 高校教頭研究協議会発表要旨 (都教委編) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 18P 会報第3号 49P 研究集録第2号 72P 28P 44P
" 51	○千 野 (井 草) 西 村 (千 歳) 吉 野 (西)	○神 藤 内 山	総会、青山会館 (125名) 総務部会29名 5回	管理研 29名 (金 井) 高校研 30名 (長 里) 生徒研 37名 (小 林) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 19P 会報第4号 69P 研究集録第3号 75P 校長選考方法調査 5P 54P
" 52	○千 野 (井 草) 梅 本 (北 園) 伊 藤 (忍 岡)	○神 藤 内 山	総会、青山会館 (135名) 総務部会26名 5回 全国大会運営委員会 (79名) 全国大会 (国立教育会館・プレスセンター・サンケイ会館)	管理研 35名 (金 井) 高校研 39名 (山 崎) 生徒研 37名 (諏訪部) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 24P 会報第5号 75P 教頭研究協議会資料 (研究集録第4号兼全国大会資料) 72P 44P 出席736名)
" 53	○青 木 (南) 乃 方 (目 黒) 大 畑 (広 尾)	○神 藤 内 山	総会、市ヶ谷会館 (136名) 総務部会29名 6回	管理研 48名 (杉 江) 高校研 51名 (浅 川) 生徒研 46名 (吉 田) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 24P 会報第6号 81P 研究集録第5号 33P 46P
" 54	○青 木 (南) 吉 田 (志 村) 安 西 (農 林)	○神 藤 内 山	総会、市ヶ谷会館 (142名) 総務部会29名 5回	管理研 50名 (高 橋) 高校研 73名 (佐 藤) 生徒研 52名 (大 滝) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第7号 83P 研究集録第6号 34P 63P
" 55	○川 島 (四谷南) 鮎 沢 (戸 山) 大 滝 (葛西南)	神 藤 代 ○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (161名) 総務部会30名 5回 全国大会準備委員会 (6名)	管理研 59名 (高 橋) 高校研 78名 (田 辺) 生徒研 54名 (松 井) 高校指導研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第8号 82P 研究集録第7号 42P 49P
" 56	○鮎 沢 (戸 山) 赤 津 (大 森) 桑 原 (板 橋)	○内 山 神 藤 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (175名) 総務部会32名 5回 全国大会運営委員会 (69名) 全国大会 (国立教育会館・サンケイ会館・農協ホール)	管理研 65名 (山 田) 高校研 72名 (鈴 木) 生徒研 66名 (白 井) 創立20周年臨時号 (教頭の職務に関する研究特集) 高校教頭研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 28P 会報第9号 88P 研究集録 (全国大会資料兼) 42P 出席973名)
" 57	○赤 津 (大 森) 牛 込 (鷺 宮) 岡 田 (国 立)	○内 山 神 藤 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (176名) 総務部会36名 4回	管理研 65名 (山 田) 高校研 70名 (鈴 木) 生徒研 69名 (白 井) 創立20周年臨時号 (教頭の職務に関する研究特集) 高校教頭研究協議会研究集録 (都教委編)	会員名簿 26P 会報第10号 74P 研究集録第8号 66P 研究集録第9号 138P 53P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
昭和 58	○大 森 (田園調布) 剣 持 (杉 並) 鈴 木 (三 商)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (174名) 総務部会33名 4 回	管理研 66名 (高 橋) 高校研 71名 (大 山) 生徒研 72名 (永 井)	会員名簿 26 P 会報第11号 78 P 研究集録第10号 66 P
“ 59	○高 橋 (明 正) 飯 島 (蒲 田) 村 上 (練馬工)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (154名) 総務部会34名 4 回 全国大会調査委員会 8 名	管理研 66名 (高 橋) 高校研 75名 (篠 田) 生徒研 70名 (山 本)	会員名簿 26 P 会報第12号 81 P 研究集録第11号 67 P
“ 60	○山 本 (駒 場) 杉 内 (江 北) 清 水 (国分寺)	○内 山 古 賀	総会、市ヶ谷会館 (164名) 総務部会34名 4 回 全国大会準備委員会34名 4 回	管理研 68名 (高 橋) 高校研 78名 (篠 田) 生徒研 67名 (岡 本)	会員名簿 26 P 会報第13号 83 P 研究集録第12号 77 P 研究協議会報告創刊号 54 P
“ 61	○山 本 (駒 場) 杉 内 (江 北) 小 宮 (富士森)	○内 山 古 賀 赤 津	総会、市ヶ谷会館 (177名) 総務部会35名 4 回 全国大会運営委員会64名 4 回 全国大会 (国立教育会館、石垣ホール、ニッショウホール)	管理研 67名 (白 井) 高校研 72名 (篠 田) 生徒研 75名 (白 田)	会員名簿 26 P 会報第14号 78 P 研究集録第13号 74 P 研究協議会報告第 2 号 59 P 出席 1,101名
“ 62	○中 村 (竹 早) 白 川 (新 宿) 廣 瀬 (保 谷)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(161名) 総務部会34名 4 回	管理研 84名 (高 橋) 高校研 61名 (田 口) 生徒研 69名 (栗 田)	会員名簿 26 P 会報第15号 74 P 研究集録第14号 71 P 研究協議会報告第 3 号 63 P
“ 63	○白 川 (新 宿) 廣 瀬 (保 谷) 中村 (新) (千歳丘)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(158名) 総務部会34名 4 回	管理研 93名 (鈴 木) 高校研 61名 (田 口) 生徒研 62名 (栗 田)	会員名簿 26 P 会報第16号 71 P 研究集録第15号 69 P 研究協議会報告第 4 号 71 P
平成 元	○崎 田 (柏 江) 奥 井 (豊 島) 小 峰 (練 馬)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(160名) 総務部会34名 4 回	管理研 86名 (木 村) 高校研 64名 (澤 井) 生徒研 68名 (福 島)	会員名簿 27 P 会報第17号 73 P 研究集録第16号 63 P 研究協議会報告第 5 号 68 P
“ 2	○奥 井 (豊 島) 木 村 (国分寺) 和 田 (光 丘)	○古 賀 赤 津	総会、グランドヒル市ヶ谷(151名) 総務部会34名 4 回	管理研 85名 (井 上) 高校研 65名 (進 藤) 生徒研 68名 (延 藤)	会員名簿 27 P 会報第18号 74 P 研究集録第17号 68 P 研究協議会報告第 6 号 73 P
“ 3	○木 村 (国分寺) 和 田 (光 丘) 嶋 澤 (芝 商)	○赤 津 奥 井	総会、青山会館 (140名) 総務部会33名 4 回	管理研 86名 (野 中) 高校研 64名 (大 室) 生徒研 67名 (原 口)	会員名簿 27 P 会報第19号 73 P 研究集録第18号 68 P 研究協議会報告第 7 号 69 P
“ 4	○高 橋 (小平南) 栗 林 (大泉学園) 井 上 (瑞穂農芸)	○赤 津 奥 井	総会、青山会館 (174名) 創立30周年記念式典・祝賀会 青山会館 (120名) 総務部会34名 4 回	管理研 81名 (浦 野) 高校研 70名 (大 室) 生徒研 66名 (結 城) 創立30周年記念誌 編集委員会 (高 橋)	会員名簿 27 P 会報第20号 78 P 研究集録第19号 66 P 研究協議会報告第 8 号 55 P 創立30周年記念誌 81 P

年度	○ 会 長 副 会 長	事務局長 次 長	総 会 総 務 部 会	研 究 部 部員数 (部長名)	刊 行 物
平成 5	○高 橋 (小平南) 浦 野 (保 谷) 井 上 (瑞穂農芸)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (142名) 総務部会35名 4回	管理研 77名 (桑 原) 高校研 71名 (武 田) 生徒研 69名 (横 田) 平成5年1月、奥井	会員名簿 27P 会報第21号 67P 研究集録第20号 64P 研究協議会報告第9号 54P 昭和45～58年度について追加
" 6	○原 口 (南 野) 川 島 (富 士) 内 海 (墨田工)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (132名) 総務部会34名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 2回	管理研 74名 (牛 島) 高校研 75名 (武 田) 生徒研 68名 (横 田)	会員名簿 27P 会報第22号 68P 研究集録第21号 64P 研究協議会報告第10号 53P
" 7	○原 口 (南 野) 川 島 (富 士) 白 鳥 (芝 商)	○赤 津 奥 井	総会、星陵会館 (130名) 総務部会35名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 3回 全国大会準備委員会 (全員) 5回	管理研 73名 (新 妻) 高校研 75名 (森 本) 生徒研 70名 (横 田)	会員名簿 27P 会報第23号 68P 研究集録第22号 64P 研究協議会報告第11号 58P
" 8	○白 鳥 (芝 商) 安 盛 (小松川) 中 西 (井 草)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (137名) 総務部会35名 4回 全国大会企画委員会 (12名) 5回 全国大会運営委員会 (65名) 5回 全国大会 (国立教育会館、灘尾ホール、石垣ホール)	管理研 74名 (新 妻) 高校研 72名 (森 本) 生徒研 72名 (廣 見)	会員名簿 27P 会報第24号 82P 研究集録第23号 62P 研究協議会報告第12号 60P 出席 1,260名
" 9	○白 鳥 (芝 商) 安 盛 (小松川) 中 西 (井 草)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (152名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (松江市) 61名参加	管理研 64名 (新 妻) 高校研 74名 (東) 生徒研 77名 (小 泉)	会員名簿 24P 会報第25号 60P 研究集録第24号 54P 研究協議会報告第13号 54P
" 10	○東 (富 士) 山 口 (府 中) 松 尾 (農 業)	○奥 井 坪 井	総会、星陵会館 (144名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (秋田市) 82名参加	管理研 70名 (新 妻) 高校研 73名 (松尾川) 生徒研 72名 (中 村)	会員名簿 24P 会報第26号 58P 研究集録第25号 56P 研究協議会報告第14号 62P
" 11	○鈴 木 (深 川) 山 口 (府 中) 齋 藤 (中野工)	○奥 井 高 橋	総会、星陵会館 (169名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (高知市) 83名参加	管理研 72名 (新 妻) 高校研 71名 (小 林) 生徒研 71名 (大 澤)	会員名簿 24P 会報第27号 60P 研究集録第26号 49P 研究協議会報告第15号 56P
" 12	○山 口 (府 中) 上 林 (武蔵野北) 相 川 (三 商)	○奥 井 高 橋	総会、星陵会館 (108名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (横浜市) 85名参加	管理研 78名 (白 木) 高校研 73名 (小 林) 生徒研 79名 (橋 本)	会員名簿 24P 会報第28号 60P 研究集録第27号 48P 研究協議会報告第16号 55P
" 13	○相 川 (三 商) 矢 嶋 (足 立) 渡 邊 (向島工)	○高 橋 白 鳥	総会、星陵会館 (65名) 総務部会35名 4回 幹事会 65名 2回 全国大会 (長崎市) 83名参加	管理研 78名 (平 山) 高校研 79名 (村 井) 生徒研 82名 (坂 本)	会員名簿 24P 会報第29号 56P 研究集録第28号 49P 研究協議会報告第17号 55P

2. 総務部会報告

1. 本部の活動（総務部会・幹事会を除く）

会 長 相 川 鞆 彦

平成13年

- 4月19日（木） 平成13年度東京都立高等学校入学者選抜に関する懇談会
- 5月7日（月） 会計監査・本部役員運営連絡会
- 21日（月） 平成13年度東京都公立高等学校定通教育関係総会（定通教頭会含む）
- 25日（火） 平成13年度日本教育会支部理事会（第1回）
- 〃日（〃） 平成13年度日本教育会支部総会・講演会
- 6月1日（金） 平成13年度東京都立学校事務長会総会
- 14日（木） 平成13年度東京都立高等学校教頭会総会・研究協議会
- 18日（月） 平成13年度東京都教育公務員弘済会評議員会
- 22日（金） 平成13年度東京都立高等学校教頭研究協議会運営役員会（第1回）
- 23日（土） 平成13年度東京都公立高等学校PTA連合会総会
- 25日（月） 平成13年度東京都教職員互助会総会
- 27日（水） 東京都教育管理職等連絡会理事会
- 29日（金） 平成13年度日本教育会総会・研究協議会
- 30日（土） 東京都公立高等学校PTA連合会東京地区高等学校PTA連合会大会
- 7月2日（火） 平成13年度四者連絡会協議会準備会……本年度から未開催と決定
- 4日（水） 平成13年度東京都公立高等学校PTA連合会顧問・相談役・総務会懇談会①
- 16日（月） 平成13年度東京都立高等学校教頭研究協議会運営役員会（第2回）
- 25日（水）～27日（金） 平成13年度全国高等学校教頭会総会・研究協議大会（長崎市）
- 9月6日（木） 平成13年度東京都立高等学校教頭研究協議会運営役（委）員会（第3回）
- 7日（金） 平成13年度東京都立高等学校教頭研究協議会
- 25日（火） 平成13年度日本教育会支部理事会（第2回）
- 10月5日（金） 会計監査・本部役員運営連絡会
- 11月5日（月） 平成13年度関東地区商業関係高等学校教頭研究協議会（都商業教頭会主催）
- 13日（火）～14日（水） 平成13年度関東地区高等学校教頭研究協議会（千葉市）
- 21日（水） 東京都教育委員会汚職等防止委員会都立学校部会（第1回）
- 29日（木） 平成13年度日本教育会支部連絡会
- 〃日（〃） 平成13年度日本教育会支部研修会 童門冬二氏「期待されるリーダーのあり方」
- 12月8日（土） 平成13年度全国高等学校PTA連合会シンポジウム（東京地区の会）
- 14日（金） 臨時本部役員運営連絡会
- 〃日（〃） 校長協会との連絡協議会
- 17日（月） 東京都教育委員会汚職等防止委員会都立学校部会（第2回）

平成14年

- 2月4日（水） 平成13年度東京都公立高等学校PTA連合会顧問・相談役・総務会懇談会②
- 9日（土） 平成13年度東京都教育委員会委託事業東京都立高等学校PTAリーダー研修会
- 3月4日（月） 東京都教育管理職等応訴費用貸付審査会
- 5日（火） 平成13年度日本教育会支部理事会（第3回）

以上、本部役員による運営連絡会での活動のほか、教頭としての職務に精励しながら、本部役員が担当している特別委員会等での活動を通して、わが教頭会が担っている対外活動を遂行した。

2. 平成13年度予算

(1) 通常会計(都費)

平成13年4月1日

収入

東京都立高等学校教頭会

項 目	前年度決算	予 算	備 考
通 常 会 費	2,394,600	2,350,400	都費208校×11,300円
雑 収 入	375	500	預金利息
繰 越 金	93,769	115,879	平成12年度より
合 計	2,489,744	2,466,779	22,965減

支出

項	項 目	前年度決算	予 算	備 考
運 営 費	会 議 費	64,800	82,000	総務部会(4回)、幹事会(2回)等
	資 料 費	4,590	2,000	東京都学校名簿
	旅 費	90,000	25,000	関東地区教頭協議会
	通 信 費	47,575	50,000	切手、はがき等
	印 刷 費	25,725	30,000	封筒、はがき印刷
	運搬送料費	50,500	60,000	全国・都刊行物配布等
	消耗品費	12,670	15,000	事務用品、帳簿等
	小 計	295,860	264,000	
事 業 費	学科別教頭会	309,000	317,000	普169人×1,000 工40人×2,000 商 21人×2,000 農 9人×2,800
	学区別教頭会	327,000	340,000	239人×1,400 端数切上げ
	研 究 部 会	300,000	336,000	28,000×6×2回/年
	会 員 名 簿	262,500	270,000	A 4 . 700部 24 P
	会 報 費	346,500	400,000	A 4 . 550部 56 P
	研 究 集 録	271,635	280,000	A 4 . 720部 49 P
	研究協議会報告	273,370	240,000	A 4 . 500部 55 P
	小 計	2,078,005	2,183,000	
予 備 費		0	19,779	
合 計		2,373,865	2,466,779	

(2) 特 別 会 計 (個 人)

平成13年4月1日

東京都立高等学校教頭会

収 入

項 目	前年度決算	予 算	増 減	備 考
特 別 会 費	2,300,000	2,400,000	100,000	10,000×会員数
研 究 助 成 金	500,000	500,000	0	(財)都教公弘済会より
負 担 金	48,000	48,000	0	私立学校6,000×8名
雑 収 入	21,507	500	△ 21,007	預金利息他
繰 越 金	2,429,452	2,275,586	△ 153,866	
合 計	5,298,959	5,224,086	△ 74,873	

支 出

項	項 目	前年度決算	予 算	備 考
運 営 費	会 議 費	552,984	500,000	総務部会懇談、教委との懇談他
	印 刷 費	133,350	170,000	総会資料、封筒他
	旅 費	83,000	180,000	全国大会（長崎）関東大会（千葉）
	渉 外 費	109,289	110,000	諸挨拶・九月教頭研講師謝礼
	全 国 会 費	104,000	152,000	私立高校全国会費＋都立複数教頭校分
	運 搬 送 料 費	98,783	110,000	送金、会議通知、刊行物送料
	資 料 費	74,675	3,000	教職員名簿
	周 年 行 事 費	0	2,000,000	40周年記念基金、次回大会基金、資料費等
	食 料 費	9,110	20,000	本部費
	雑 費	23,190	30,000	事務用品他
	小 計	1,188,381	3,275,000	
維 持 費	慶 弔 費	158,992	150,000	退職記念品、見舞金、その他
	人 件 費	821,000	840,000	全国分担金
	家賃・光熱費	655,000	750,000	〃
	小 計	1,634,992	1,740,000	
予 備 費		200,000	209,086	
合 計		3,023,373	5,224,086	

3. 平成13年度 事業報告

平成14年 3月31日
東京都立高等学校教頭会

会 合

平成13年 4月12日(木)	総務部会①	神楽坂エミール	出席	22名
5月10日(木)	幹事会①	神楽坂エミール	〃	28名
6月14日(木)	総会・研究協議会	星陵会館(来賓3名)	〃	65名
		懇談会(来賓2名)	〃	53名
7月5日(木)	総務部会②	神楽坂エミール	〃	20名
9月7日(金)	都教頭研究協議会	東京都教職員研修センター／全員		
10月11日(木)	総務部会③	神楽坂エミール	出席	22名
11月8日(木)	幹事会②	神楽坂エミール	〃	25名
平成14年 1月10日(木)	総務部会④	神楽坂エミール	〃	23名

総務部会(年4回)

1. 規約に従って会運営の原案作成及び協議、各学区、各学科・各研究部との連絡調整を行った。
2. 第40回全国高等学校教頭会、総会・研究協議大会(長崎)実施の援助を行った。
3. 定期刊行物発行方針・企画・編集や都教育庁関係資料の会員への配布や研究等を行った。
4. 幹事会・総会等には元校長を講師に招き講話を通して教頭職への理解を深めた。
5. 全国高等学校教頭会、各種友好団体との情報交換に努め、相互理解を深めた。

研究部会(定例日:毎月第1木曜日)

1. 全会員(239名)で組織し、管理運営研究部会(第1委員会40名、第2委員会38名)、高校教育研究部会(第1委員会39名、第2委員会40名)、生徒指導研究部会(第1委員会43名、第2委員会39名)の3部会6委員会に分れ、毎月第1木曜日に研究協議を行った。
2. 各委員会毎にテーマを設定し、その研究成果を「研究集録第28号」にまとめ、教育庁、校長・教頭(全・定)全員に配布をすると共に、各種友好団体に寄贈した。
3. 全定教頭会主催の教頭研究協議会に各委員会より各1論文、全国高等学校教頭会の全国大会(長崎大会)に各研究部から1論文(管理研第1、高校研第1、生徒研第1)の研究発表を行った。
4. 研究部会・委員会の活性化を図るため、各委員会毎に学区1名の研究連絡委員を引き続き選出し、協議内容の充実と全会員への浸透を図るように努めた。

そ の 他

1. 校長会役員と本部役員と話し合う会 12月14日 石川都校長会長をはじめ校長会役員と教頭会本部役員との情報交換会を行った。
2. 第40回全国大会(於、長崎市)は参加者1,131名中、東京は83名参加
3. 関東地区教頭研究協議会(千葉主管) 全国会長のほか3名参加

刊 行 物

1. 会員名簿	(A4版)平成13年 6月3日	24頁 650部	校長・全定教頭、都教委など
2. 総会資料	〃	6月3日 12頁 520部	校長・教頭・都教委など
3. 研究集録(28号)	〃	7月26日 49頁 650部	校長・全定教頭、都教委など
4. 研究協議会報告(17号)	〃	10月29日 55頁 650部	校長・全定教頭、都教委など
5. 会報(29号)	〃	3月20日 56頁 650部	校長・教頭・都教委など

4. 総会・懇談会

(1) 総会・研究協議会

6月14日(木) 15時20分～16時

於：星陵会館

出席 会員 65名

来賓 3名

佐藤光一 都公立高校定通教頭会会長

後藤和美 都立学校事務長会会長

清水泰岳 都教育公務員弘済会理事長

司会：渡邊 征博(向島工)

会長挨拶 山口正光(前府中)

来賓挨拶 佐藤光一先生

後藤和美先生

清水孝岳先生

議事 議長：矢嶋 邦男(足立)

1. 平成12年度事業報告……………会 長

2. 同 決算報告……………会 計

3. 同 会計監査報告……………会計監査

4. 平成13年度役員選出……………会 長

5. 同 部会組織……………会 長

6. 同 全国役員の推薦……………会 長

7. 正副会長・全国会長候補 挨拶

役員・常任幹事・研究部長・委員長

事務局長・次長の紹介……………会 長

8. 平成13年度事業計画……………新会長

9. 平成13年度予算……………新会計

注・議事はいずれも異議なく承認された。

・校長協会代表は重要会議があり、欠席。

・総会出席者が例年より少なくなった。

(2) 講 話 16時10分～17時

「会長退任にあたり教頭先生に期待すること」(要旨)

前全国高等学校校長協会会長

東京農工大学助教授 水谷 弘 先生

今年の3月末に校長を退任し、4月から大学で広報の仕事をしている。仕事の関係から東京及び近郊の高等学校を回っているが、公立高校と私立高校では明らかに違う。私学では管理職と教職員が一体となって学校をつくっていることが感じられる。

さて、都では昨年度から人事考課制度が始まり、教頭先生は忙しい毎日を送っていることと思う。

しかし、都のあり方検討委員会以降の様々なことは、中教審答申等により示された教育改革の大きな流れの中にあるものであって、中教審答申「今後の地方教育行政のあり方について」や「初等中等教育と高等教育の接続について」など国の答申等を読んでいくと、現在行われていることは、数年前に示された考えが具体化されているのだということが分かる。ぜひ、これらに目を通していただきたい。今後の方向も見えてくると思う。

中教審答申では、学校の自主性・自律性を確立し、自らの判断で学校づくりに取り組むことができるようにするには、その前に、職員会議の位置付けの明確化、学校評議員制度(都においては学校運営連絡協議会)の導入、教職員人事のあり方の見直し、主任制の見直し等を整備しなければならないと述べており、これらについて法制化が進められているところである。都立高等学校において自主性・自律性を確保していくには、まずこれらを正常化していく必要がある。そのため、都において様々な施策が進められている。

なお、今、都は主任を中間管理職として位置付けるための準備をすすめている。都立高校の教頭の仕事が多忙を極めていることから、主任に仕事を分散していくことは必要である。実際に主任を教頭の下に位置付けている私学も都内にある。

都立高校が復活するためには、私立と同等のことをやっていく必要がある。その一つは、都立と私学の入試試験日を同じ日にすることである。今のように私学が先に入学試験を行い、そのあとに都立が行っているのは、都立はよい生徒を集めることができない。

また、今年度から管理職の降任制度ができたが、管理職になってから自分はこの仕事に向いていないとわかったら、教諭に戻れるようにしたのはよいことだと思う。

「教頭先生に期待すること」であったが、厳しい話ばかりになってしまった。教頭会は任意団体であるため、今年度から出張の扱いが大きく変更され活動がしにくくなったとの声を聞く。しかし、任意団体だからこそ行えることもある。高校教育についてこれまでとは別の角度から研究・協議し、その在り方や方向性について提言

のできる政策集団となることもできると思う。
 高校教育について、様々なところから提言がなされているが、生まれてから大人になるまでの成長段階の中で高校はどのような役割を担っていけばよいか、高校の立場からの具体的な提言はない。ぜひ、教頭会が政策集団となって具体的な提言していただきたい。これからの教頭会の活動に期待して終りにする。

(3) 教育懇談会 17時00分～18時30分

参加 53名

来賓 桑木 健 人事部管理主事

“ 水谷 弘 前全国高等学校長協会会長

◎新入会員紹介

今年度の新入会員の先生方は、次の49名の先生方です。

定時制等より転任の先生 24名

新任の先生 25名

会員の異動

退職者 11名

校長栄進者 33名

教頭

全日制間の転任 11名

定時制転任 24名

新任 27名



5. 幹事会

総会に次ぐ機関で主に総会提出議案や総務部会からの原案の審議を行う。

第1回幹事会

5月10日(木) 14時30分～17時

於. 神楽坂エミール

出席者 66名中 28名

【会議次第】

議長 小川達夫 1学区常任幹事・一橋

1. 会長挨拶……………山口会長
2. 平成12年度事業報告……………山口会長
3. “ 決算報告……清水・後藤新会計
4. “ 監査報告……百済・久住新監査
5. 平成13年度事業計画と予算案
……………会長・会計
6. “ 緊急連絡網……………事務局
7. “ 役員組織(都・全国候補)
……………相川新会長・綿田新全国会長
8. “ 全国部会組織……綿田新全国会長
9. 新旧役員挨拶……………都本部・全国三役
10. 全国教頭会報告……………綿田新全国会長
11. 事務局より(総会その他の連絡)
12. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事、部長・委員長

【コメント】

⇒ 教育委員会「教頭功労」表彰の紹介

矢嶋 紀明(蒲田) 近藤國男(小金井工)

寺嶋 幸子(荻窪) 矢崎 功(田無工)

齊藤信一郎(中野工) 山口正光(府中)

上林 勇(武蔵野北)

(3月29日付 7名)

⇒ 例年第1回目は総会の議案審議・関連する連絡が中心となる。議案は異議なく承認。

⇒ 議事12の学区等の支部教頭会報告が毎回時間不足になる。今後もっと時間をかけて情報交換を密にしたい。

第2回幹事会

11月8日(木) 14時30分～17時

於. 神楽坂エミール

出席者 66名中 25名

【会議次第】

議長 森山慎一 4学区常任幹事・大山

1. 会長挨拶……………相川会長
2. 本年度上半期の事業報告……………相川会長

3. 本年度会計中間報告……清水・後藤会計
4. “ 中間監査報告……百済・久住監査
5. 平成14年度行事計画……矢嶋副会長
6. 全国教頭会報告……綿田全国会長・
7. 会報29号執筆について・他……事務局
8. 教頭研究協議会報告……渡邊副会長
9. 学区・学科・研究部の報告……常任幹事他
10. 教頭会四十周年記念行事……相川会長

【コメント】

⇒ 九月教頭研の反省

- ・今年から「出張」扱いが認められず、「職免」扱いとなったので出席率に不安があった。
- ・結果的に全日制の出席率は70%を超え、定時制では100%近くなり、担当者は「ホット」胸をなでおろした。
- ・各県の地道な研究の成果が、全国大会で重要な情報となる。とくに東京の研究発表は全国から注目されている。はたして、その任に今後耐えていけるのか。

⇒ 平成14年6月13日（木）フロラシオン青山において東京都立高等学校教頭会創立四十周年記念式典を挙行する予定。内容は総会終了後①式典、②祝賀会、③記念誌発刊。企画役員会組織の立ち上げ。平成14年度役員・総務部員等で企画、実施の予定。

⇒ 後期活動費の支給。

⇒ 関東地区研究協議会報告

11月13～14日 於、千葉県千葉市

- ・綿田会長以下3名出席。
 - ア 学校再編への具体的取り組みについて
 - イ 新教育課程編成上の諸問題について
 - ウ 生徒指導への新たな取り組みについて
- 等のテーマで各都県市から報告がなされた。

【講話】16:20～17:00

「最近の教育課題と教頭の今後のあり方」

（要旨） 講師 ㈱日本修学旅行協会

理事長 河上 一雄先生

（前日比谷高等学校長・前都立高等学校校長協会会長）

1 激動期に臨む教頭の在り方

- ・最近の教頭は顔が見えない。
- ・最近の東京の動きは注目されている。もう、私立だ都立だと言う時代ではない。
- ・民間の立場で考えるのか。今後は、独立行政法人化がいいだろう。私学助成金をもらって。

2 選ばれる都立高等学校づくり

- ・学区制廃止にどう対応できるか

都民に選ばれる都立高等学校…全都で生きるか地域で生きるか生き残れるか中堅校？

- ・いま、中学校に行っても駄目。小学校の2～3年生のところへいかなければ。品川区・豊島区の流れは広がる。小学校を好きに選び、中学校を好きに選び、高校を好きに選ぶ必要がある。校長・教頭が教員のトドのつまりであつたならだめだ。校長の経営方針を見て決心する。しかし、具体性が殆どない。
- ・校長に「このところはどうか。」と提言できなければ教頭をしている甲斐がない。入学式・卒業式の時の式辞を書けるか。指示すると書けない、苦しいという。受け身ばかりではだめ。上下関係はあるが、校長と戦友であるとの意識があるか。一緒に考えている教頭は伸びていく。
- ・課題のある学校は生きていける。ニーズのある学校。進学ニーズ。

俗に言う中堅校が一番危ない。減学級。集まらなければ自然消滅。学区制をやらないことを私立はとても喜んでいる。

- ・中高一貫教育をしているか。私立は接続していない。数校だけだ。
- ・かなり中高一貫の6年はぎくしゃくしている。高校で募集しているところはそうだ。
- ・*教員の意識改革は進むか。

異動があるだけにグラインドできる。

3 マネージメント能力とスクール・ミッション

- ・*教育へ数値目標の導入をどう考えるか
- ・*哲学と夢はあるか
- ・*ヒラメにも天然ヒラメと養殖ヒラメがいる

【教育情報交換会】17時～19時30分

講話後に開催。河上先生にもご参加いただき、質疑応答を続けた。先生から直に元氣の話をうかがえて、会が盛り上がった。



6. 総務部会

第1回

4月12日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席35名中 22名

【会議次第】

- 司会 10学区 中村澄隆教頭(三鷹)
1. 会長挨拶……………山口会長
 2. 昨年度の活動概況と
教育庁関連の課題……………山口会長
 3. 事務局からの連絡
年度当初の会合日程……………事務局
 4. 学区・学科・研究部会の
名簿作成の連絡……………事務局
 5. 新役員推薦(会長、副会長、
会計、会計監査)……………山口会長
 6. 全国役員候補(会長、副会長、
会計)推薦……………近藤会長
 7. 新旧役員(全国、都関係)挨拶
……………新旧役員
 8. 全国高校教頭会報告……………近藤全国会長
 9. 学区・学科支部の報告……………各常任幹事
 10. 研究部・委員会報告……………部長・委員長

【コメント】

- ⇒例年通り旧総務部員と新役員候補で開催。
今年度から会への参加の服務上の取り扱い
が「職免」となったためか昨年度より出席
率がわるいようである。
- ⇒新役員候補紹介のほか新年度での最初の会
合なので、学区などの組織体制に関する指
示が多い。
- ⇒複数教頭配置校 31校 教頭数 239名
昨年度比 9名増
- ⇒東京都の教頭会は全国から注目されている。
全国高等学校教頭会から期待されているこ
とを肌で感じる。(全国会長)

【教育懇談会】 引き続きエミールにて

17時30分～19時30分

- ⇒この懇談会は勇退・栄進者の歓送と、新役
員の歓迎の意味がある。
- 昨年と同様に、「課題が多い昨今、元氣
を失わないように」をモットーに呼びかけ、
新旧役員どうして活発な情報交換がなされ
た。

第2回

7月5日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席35名中 20名

【会議次第】

司会 2学区 中野英雄教頭(国際)

1. 会長挨拶……………相川会長
2. 教頭会総会・懇談会会計について
……………清水・後藤会計
3. 9月教頭研究協議会について
……………渡邊副会長
4. 学区・学科・研究部会の名簿作成の連絡
……………事務局
5. 全国高校教頭会報告……………綿田全国会長
6. 都教頭会の活動報告……………相川会長
7. 事務局より
9. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事・委員長

【コメント】

- ⇒常任幹事・研究部などからの情報交換・意
見交換の充実をはかる。
- ⇒研究部会の参加者がすくない。活性化する
にはどうしたらよいか、組織替えの必要性
などの声もあり。
- ⇒夏季休業を活用して、普段は会合を少なく
しようとする方針でいくとの委員会報告あり。
- ⇒教頭が文書処理ばかりやるようでは、教育
は減じる。校長と教頭とはキャッチボール
ができるような関係が必要。
- ⇒九月教頭研究協議会の連絡・役割分担に関
する連絡が多い。
- ⇒1～2年目の教頭には極力研究部に参加す
るよう心がけて欲しい。
- ⇒総務部会に出席できない学区については、
近隣の学区の常任幹事が当日の資料を渡す
ようにして欲しい。

第3回

10月11日(木) 14時30分～17時
於. 神楽坂エミール
出席35名中 22名

【会議次第】

司会 3 学区 針馬利行教頭（練馬）

1. 会長挨拶……………相川会長
2. 会計中間報告……………会 計
3. 同監査報告……………会計監査
4. 全国教頭会報告……………綿田全国会長
5. 四者連絡協議会……………矢嶋副会長
6. 平成14年度行事計画……………矢嶋副会長
7. 今後の予定・その他……………事務局
8. 九月教頭研についての反省等
……………渡邊副会長
9. 学区・学科・研究部の報告
……………常任幹事・部長・委員長

【コメント】

- ⇒城東高野球部（甲子園出場）へ10万円寄付金支出
- ⇒全国大会（長崎）参加者 1,131名。東京からの参加者は83名
- ⇒四者連絡協議会は今年から実施しない方向。
- ⇒九月教頭研の件
 - ・全体を通して平均出席率70.3%
 - ・研究部会への参加者が少なく、メンバーが固定化している。
 - ・講師の清水委員長の講話が好評であった。
 - ・各分科会では、助言者に対する謝辞を全・定の委員長が述べるのがよいのではないかと意見あり。
- ⇒米国の同時多発テロの影響を受け、沖縄への修学旅行を中止した学校が相当数あるとの報告。
- ⇒研究部活動が時間がとりにくくなって調整に苦労するとの報告あり。

第 4 回

14年1月10日（木） 14時30分～17時
於．神楽坂エミール
出席35名中 23名

【会議次第】

司会 5 学区 高田幸一教頭（江北）

1. 会長挨拶……………相川会長
2. 教頭会創立40周年記念行事について
……………相川会長
3. 全国教頭会報告……………綿田会長
4. 校長会との話し合いについて……………相川会長
5. 支部活動費の報告……………会 計
6. 事務局からの連絡……………事務局長
7. 次年度への事務引継……………同次長

8. 学区・学科・支部の報告……………各常任幹事
9. 研究部会の報告……………各研究部長

【コメント】

- ⇒教頭会の話し合いに深まりがなく、もっと忌憚なく話し合える会でしなければ、活性化は期待できない。
- ⇒各学区の教頭会ではいろいろ工夫して特色を出すように努めている。
- ⇒完全学校週五日制になった場合PTA活動や中学生の上級学校訪問、学校説明会をいつ、どのように実施するか。
- ⇒各校における土曜日の予測状況報告
- ⇒教頭会で宿泊の研修会を実施し研鑽に努めている学区あり。
- ⇒創立四十周年記念式典は平成14年度の役員で役割分担をすることに決定。
- ⇒文部省の補助金打切りに伴う打開案の決定のため、1/21緊急総務部会（全国）の開催。

【賀詞交換会】

- 恒例により会議後に開催。
- 総務部会で十分情報交換ができなかったところの不足を補う。



7. 特別委員会

会 長 相 川 鞆 彦

1. 東京都教育委員会汚職等防止委員会都立学校部会委員

相川鞆彦（第三商）

- ・ 東京都教育委員会における各部、事業所及び都立学校の実態に即した汚職等防止対策及び事務改善をより具体的に検討する部会の委員

2. 都立高等学校等入学者選抜に関する懇談会委員

相川鞆彦（第三商）

- ・ 平成13年度都立高等学校等入学者選抜結果から、平成14年度都立高等学校等入学者選抜の改善に資する諸事項を懇談する会の委員

3. 東京都教育管理職等連絡会理事

相川鞆彦（第三商）

- ・ 東京都公立学校の校長、教頭及び教育委員会の事務室長が職務上の任務に起因して訴訟を提起された場合、応訴費用を貸し付けることにより個人の金銭的な負担を軽減するとともに、東京都における学校教育の円滑な運営を図ることを目的とした会の理事

4. 東京都教育管理職等応訴費用貸付審査会委員

矢嶋邦男（足 立）

- ・ 東京都教育管理職等応訴費用貸付規程第9条に基づき、応訴費用貸付を審査する委員

5. 東京都教職員互助会運営委員

綿田直樹（調布北）

- ・ 東京都教職員互助会の諸事業の運営に関与する委員

6. 日本教育会東京都支部役員

理 事

相川鞆彦（第三商） 矢嶋邦男（足 立） 渡邊征博（向島工）

評議員

小川達夫（一 橋） 中野英雄（国 際） 針馬利行（練 馬） 森山 慎一（大 山）
高田幸一（江 北） 國分丈夫（両 国） 津田久枝（富士森） 内田志づ子（砂 川）
清原敬一（国分寺） 和田吉廣（南 野） 若井文隆（大 島）

- ・ 日本教育会の諸事業に協力し、支部事業（総会、研修会、支部報発刊等）を企画・実施する役員

7. 東京都立高等学校PTA連合会相談役

相川鞆彦（第三商）

- ・ 東京都立高等学校PTA連合会の諸事業に関して相談を受ける相談役

8. 東京都教育公務員弘済会評議員

渡邊征博（向島工）

- ・ 東京都教育公務員弘済会の諸事業に関する諸事項を評議する評議員

3. 主な活動報告

1. 全国高等学校教頭会

1. 会 合

5月11日(金)	監査・本部役員会	東京・事務局	4県	14名
29日(火)	総務部会 第1回	東京・アルカディア市ヶ谷	7県	19名
6月8日(金)	理事研究協議会 第1回 (含、地区研究協議会)	" "	46県2市	94名
7月6日(金)	総務部会 第2回	" "	7県	19名
25日(水)	研究部会	長崎・セントヒル長崎	10県	16名
"	全国理事研究協議会第2回	" "	47県4市	99名
26日(木)	総会・研究協議大会	長崎ブリックホール	47県4市1,	131名
27日(金)	研究協議大会	"		
10月18日(金)	中間監査・本部役員会	東京・事務局	3県	11名
23日(火)	総務会 第3回	東京・アルカディア市ヶ谷	7県	19名
11月9日(金)	常任理事会	" "		
14年1月21日(月)	緊急総務部会	神楽坂エミール	5県	17名

2. 地区協議会

北海道地区	① 5月17日～18日	於、旭川市	東海地区	10月12日	三重県主管
"	② 11月27日	於、札幌市	近畿地区	12月1日～2日	京都府 "
東北地区	10月23日～24日	青森県主管	中国地区	8月9日～10日	鳥取県 "
関東地区	11月13日～14日	千葉県 "	四国地区	10月19日～20日	香川県 "
北信越地区	11月15日～16日	富山県 "	九州地区	(全国大会を兼ねる)	

3. 刊 行 物

・発表資料集	第21号	平成13年7月7日	116頁	参加者・県教委・県校長会などに配布
・全国要覧	第24号	" 9月11日	52"	会員・県教委・校長会などに配布
・会 報	第60号	" 9月29日	12"	" " " "
・研究集録	第24号	" 10月11日	113"	" " " "
・全国大会集録	第37号	" 10月20日	149"	" " " "
(長崎県)				
・調査研究集	第25号	平成14年1月10日	64"	" " " "
・会 報	第61号	平成14年1月10日	16"	" " " "

(注)「研究集録」と「調査研究集」は国際登録指定刊行物。

4. 研究発表

19県24題(長崎4題、東京3題、青森・岐阜2題、10県各1題)

研究部門	全 国 大 会	研 究 集 録	計
管理運営	青森、東京、岐阜、徳島、長崎	岐阜、愛知(名古屋市)	6県7題
高校教育	神奈川、東京、滋賀、沖縄、長崎	青森、長崎	6県7題
生徒指導	北海道、東京、石川、岡山、長崎	福島、島根	7県7題

2. 東京都立高等学校教頭研究協議会

東京都立高等学校教頭会

東京都公立高等学校定通教頭会 共催

21世紀を迎え、はじめての本研究協議会は私達本部役員にとって、不安と絶望に近い気持ちで準備を進めてきた。それは、本研究協議会への参加が今年度より、出張が認められず職免扱いになったことである。

また、高校改革の進行に伴う教頭の多忙化と学校を空けることへの抵抗感等により、どの位の数の教頭が参加してもらえるかが大変心配であった。

しかし、ふたを開け、9月7日の研究協議会を迎えた時、70%を越す参加率があったことにほっと安堵し、胸をなでおろすことができた。

これは、各々の教頭が自分達の意識を高揚させ、資質を高めて、活力に溢れた魅力ある都立高校づくりへの熱意が、今回の成功をもたらしたのだと思う。裏返して言えば、今日の高校教の困難さを教頭自身が打開し、都民の期待に応える都立高校の実現に向けた、熱意の表れであると確信する。

本研究協議会を開催するに当たり、下記の日程で、27名の運営委員会が会合し、企画立案を行うとともに、運営上の諸事項も協議した。

- 6月22日(金) 第1回 運営委員会
都庁第一本庁舎
- 7月16日(月) 第2回 運営委員会
都庁第二本庁舎
- 9月6日(木) 第3回 運営委員会
教職員研修センター

実施事項

1. 趣 旨

都立高校改革推進計画を踏まえ、都立高等学校の個性化・特色化を図り、都民の期待に応え得る高等学校教育を推進するため、当面する教育課題について研究協議を行うことにより、教頭としての識見を高め、各都立高等学校の学校運営並びに教育指導の充実に資する。

2. 日 時

平成13年9月7日(金)
13:15~16:30

3. 場 所

東京都教職員研修センター

4. 参加対象 都立高等学校教頭 345名
全日制課程 239名

(副校長・舎監長を含む)

定時制・通信制課程 106名

(副校長を含む)

5. 内 容

中心課題：高校改革の推進を図り、魅力ある都立高校の実現

－開かれた都立高校を目指して－

6. 分科会

当面する教育諸課題について6分科会を設け、提案に基づいて研究協議を行う。

第1分科会 開かれた学校づくり／学校改革の推進を図る方策とその課題

第2分科会 学校の危機管理と教頭の職務／情報の管理及び人事考課について

第3分科会 新学習指導要領実施に向けた対応／総合的な学習の時間の実施

第4分科会 新しい高等学校像／学校外における学習の単位認定

第5分科会 カウンセラー配置を巡る事例研究

第6分科会 学校行事を通して、生きる力を育む学校づくり／保護者との連携による生徒指導の可能性

7. 全体会

講話を通じて、高校教育の未来を展望し学校経営に主体的に参画できる教頭としての識見を高める

(1) 教育委員会挨拶

指導部主任指導主事

揚村 洋一郎 先生

(2) 講話 「今後の高校教育と学校管理」

－21世紀の教頭の在り方－

東京都教育委員会

教育委員長

清水 司 先生

(3) あいさつ

東京都立高等学校教頭会

会長 相川 鞆彦

東京都公立高等学校定通教頭会

会長 佐藤 光一

副会長 渡邊 征博(向島工)記

4. 学区別支部教頭会報告

1. 第1学区高校教頭会

第1回教頭会

平成13年4月20日（金）18時～20時

羽田高等学校

- 1 研究部のメンバー選出等
- 2 情報交換
- 3 教頭会費の徴収等
- 4 電話連絡網の確認等

第2回教頭会

平成13年4月27日（金）14時～17時

八潮高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第3回教頭会

平成13年5月14日（月）14時～17時

日比谷高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第4回教頭会

平成13年6月12日（火）14時～17時

一橋高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第5回教頭会

平成13年7月13日（木）14時～17時

九段高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第6回教頭会

平成13年9月11日（火）、小山台高等学校で実施予定であったが、東京地方に台風が接近したため教頭連絡会及び教頭会は中止。

第7回教頭会

平成13年10月16日（火）1時半～5時

雪谷高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第8回教頭会

平成13年11月13日（火）1時半～5時

大森高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第9回教頭会

平成13年12月11日（火）1時半～5時

芝商業高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第10回教頭会

平成14年1月22日（火）1時半～5時

大崎高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第11回教頭会

平成14年2月12日（火）1時半～5時

田園調布高等学校

- 1 教頭連絡会
- 2 都教頭会より
- 3 学区教頭会より
- 4 情報交換

第12回教頭会

平成14年3月12日（火）

つばさ総合高等学校（予定）

常任幹事 小川 達夫（一橋）記

2. 第2学区高校教頭会

第1回定例会 桜町高校

平成13年4月27日(金)

1. 会場校 山室校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
学校運営の適正化、人事考課制度、プール
事故防止、コスト意識、服務、授業日数・時
間数の確保等について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
4. 課程別に課題等についての意見交換
幹事より、会場校について
会計報告
情報交換 学校運営連絡協議会、部活動引
率の扱い、PTA会費等

第2回定例会 松原高校

平成13年5月14日(月)

1. 会場校 八木校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
学務部経理担当 授業料の督促について
司書教諭の養成、主任研修等について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
4. 課程別に課題等についての意見交換
授業公開について
5. 歓送迎会

第3回定例会 世田谷工業高校

平成13年6月12日(火)

1. 会場校 木村校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
学校運営の適正化、教育課程の適正な実施
等について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
4. 課程別に課題等についての意見交換

第4回定例会 明正高校

平成13年7月13日(金)

1. 会場校 石井校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
校長連絡会の内容報告、早期選考防止等につ
いて
3. 学校運営上の課題についての意見交換
4. 課程別に課題等についての意見交換
学校運営連絡協議会について

第5回定例会 新宿山吹高校

平成13年9月11日(火)

台風のため、中止

第6回定例会 青山高校

平成13年10月16日(火)

1. 会場校 海野校長挨拶

2. 学区担当指導主事からの諸連絡等

沖縄修学旅行、情報教育アドバイザー、学
校火災防止等について

3. 学校運営上の課題についての意見交換
総合的な学習の時間について

4. 課程別に課題等についての意見交換
幹事会報告

学校説明会、教育課程等について

第7回定例会 玉川高校

平成13年11月13日(火)

1. 会場校 佐治校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
年間授業計画、授業確保、トライ&チャレ
ンジ、教科「情報」、学校火災等について
3. 学校運営上の課題についての意見交換
各教科・科目の年間授業計画の作成につい
て

主任制度に関する中間のまとめについて

4. 課程別に課題等についての意見交換
幹事会報告

学校5日制に伴う体験入学、授業公開、保
護者会の扱いについて

第8回定例会 第一商業高校

平成13年12月11日(火)

1. 会場校 山崎校長挨拶
2. 学区担当指導主事からの諸連絡等
修学旅行、教育課程、土曜日の補習等につ
いて
3. 学校運営上の課題についての意見交換
2学期末考査終了後の期間
4. 人事部から連絡
服務事故への対応について
5. 課程別に課題等についての意見交換
幹事会報告
情報交換

第9回定例会 国際高校

平成14年1月22日(火)

1. 会場校 川島校長挨拶
2. 保健給食課からの連絡
3. 学区担当指導主事からの諸連絡等
4. 学校運営上の課題についての意見交換
考査終了後の期間、総合的な学習の時間
授業公開
5. 課程別に課題等についての意見交換
幹事会報告
情報交換

第10回定例会 小石川工業高校 予定

第11回定例会 新宿高校 予定

常任幹事 中野英雄(国際) 記

3. 第3学区高校教頭会

今年度から東京都教育委員会主催の全定合同の教頭連絡会となった。指導部から校長連絡会の報告、それに対する質疑応答、その後に全定に別れて学区の教頭会を行うということになった。ここでは学区の教頭会で協議されたものを中心として報告する。

臨時教頭会 桜水商業高校 出席者20名

平成13年4月20日（金）14時～17時

役員の選出 常任幹事 針馬（練馬）幹事 須藤（大泉）、英（西）、会計 島村（桜水商業）

教頭連絡会は出張であるが、その他の教頭会の会合は職免になるという連絡があり、今後の対策を協議した。通年の授業公開が新聞に発表され、早速問い合わせがあった学校など情報を交換した。

第1回定例会 石神井高校 出席者21名

平成13年4月27日（金）14時～17時

初めての全定合同の会であった。自己紹介を行い、自己申告書の提出状況について情報交換を行った。昨年度通年の授業公開の試行校であった練馬工業から報告があった。

第2回定例会 大泉高校 出席者22名

平成13年5月14日（月）14時～17時

幹事であった須藤教頭（大泉）が校長へ栄進されたので、古山教頭（大泉北）を選出した。

自己申告書の提出と面接の実施状況の情報交換を行った。職員団体の抵抗がありながらも、教頭が調整し進めている様子が報告された。司書教諭や情報教諭の免許取得講習会への参加依頼の要望があったが、取得後の待遇がはっきりしないため教頭が苦労している発言があった。

第3回定例会 農芸高校 出席者23名

平成13年6月12日（火）14時～17時

授業観察についての情報交換を行う。職員団体とのやりとりの中、面接と同時進行で教頭が苦労しながらも着々と進めている様子が報告された。また期末考査後の授業の実施についても情報交換を行った。

第4回定例会 杉並高校 出席者22名

平成13年7月13日（金）14時～17時

授業公開について情報交換をした。

第5回定例会 台風のため中止となった。

第6回定例会 富士高校 出席者20名

平成13年10月16日（火）13時30分～17時

総合的な学習の時間について、試行校である荻窪（定）から報告があった。検討が進んでいる学校から進捗状況を報告してもらった。

9・11のアメリカ東部同時テロの影響で、沖縄への修学旅行について実施の可否を検討し始めた学校から報告があった。

第7回定例会 第四商業高校 出席者20名

平成13年11月13日（火）13時30分～17時

平成14年度から年間授業計画を作成し生徒・保護者へ公開する件について、教員を指導するために記載項目などを明示した文書を出してほしいという要望をした。現在作成している農芸高校からの説明があった。

主幹制度について人事部からの出席者に対して質疑応答を行った。

第8回定例会 四谷商業高校 出席者21名

平成13年12月11日（火）13時30分～17時

人事部より柿漆管理工事が来て服務事故防止について話があった。

年間行事計画の中の欄外に記入されたものは日程が決まり次第変更届を出すという件で、多くの質問や疑問が出され、次回に回答することになった。

学校五日制になったときの保護者会やPTA役員会などの持ち方について情報交換した。

第9回定例会 鷺宮高校 出席者21名

平成14年1月22日（火）13時30分～17時

1月15日逝去された大倉教頭（第四商業）の冥福を祈り1分間の黙禱の後会議を始めた。

3学期における授業観察についての情報交換を行ったが、人選など多くの仕事の中で苦労しながら取り組んでいる様子が報告された。

常任幹事 針馬利行（練馬） 記



4. 第4学区高校教頭会

本学区は全日制担当の教頭の人数は、総数20名の陣容である。その内訳は、普通科は11校で11名、商業科は3校で3名、工業科は3校で4名、単位制は1校で2名の人数で構成している。

役員は、常任幹事1名、幹事2名、会計1名の4人が1年任期で総交代の方法を取り、学区に赴任歴が長い順に役割を決めるという原則を取っている。

本年度から、前半は、定時制担当教頭会と合同での東京都教育委員会主催の教頭連絡会を行い、後半は、各課程の教頭会に入っていく過程で進めてきている。

では、後半の会の中身と言うか、様相と言うか、旨く表現はできないが、その内容はこの3年間で約半数余が異動または校長昇進や御退職をされて構成員の変化と共に変容してきている。

加えて、多様な学校教育への多様な風の直撃を受けて、確実に変化してきていることは致し方のないことかなとも感じている。この思いは私一人だけではないようである。

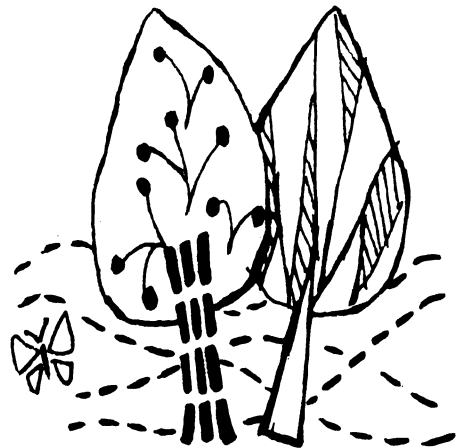
それらの要因等は「本音を言わない教頭が少しずつ増えている」という側面をもたらしている。言い換えれば、「情報をもらっても情報を流さない教頭が増えている傾向がある」と言っても言い過ぎではない現象がでている。

しかし、皆んな忙しく、苦しい立場にいるわけで、だからこそ、もっと腹を大きくしていこうではないかと考える教頭が約半数強はいる。心強い限りである。

そのメンバーが上述の渦中の流れの中で貴重な時間を有効に活かす場に、必ず会の後に参集し、戦友にも似た思いを抱きつつ、明日へのエネルギーへの糧にしてきている。有り難いことと本年度の幹事・役員一同感謝している。

後漢書の一節にある「志ある者、事、意に成す也。」は、共に生きる場を共有する教頭にとって意義ある示唆を与えているのではないだろうか。けっして、「夢幻の如く……」とはなってはならないとも考える。縁あって、4学区の教頭になった時期を心の底から共有できる仲間でありたいものである。

常任幹事 森山 慎一（大山）記



5. 第5学区高校教頭会

○形態の変化

平成13年は、教頭会から教頭連絡会という名称に変わり東京都教育委員会が主催する形になった。また、教頭会の研究研修は、職免という形で活動することになった。

第5学区は、今年、望月指導主事が担当にされた。会の運営は、全日、定時制が合同で、東京都の教育情報（各部）を全体を通して、1時間から2時間の間で連絡、質疑応答を行い、その後、全定に分かれて全日と定時制の情報交換等が行われた。

全日と定時制と同時開催は、日程、会場設定、資料配付も一度に徹底できて非常によかった。また、各部署の副参事等が会場まで来ていただき直接、膝を交えて課題等について話を聞く機会が得られ、正確な情報を共有できるようになった。

しかし、全体会と定時制、全日制に分かれるようになり、指導主事との直接の質疑応答において、もう少しゆっくりした時間的な余裕が欲しいという声も聞かれた。また、毎月1回の教頭連絡会は、主催が都教委であり各部署からの課題、要望等の情報提供を受ける事が中心である。このことから、受け身になりやすかった。

以前は、自らの学校の課題を正面に見据えて持ち寄り、色々な教頭が経験の多少に関わらず改善策を見いだすため、真剣に知恵を出し合った。経験の差に驚き、励まされたり、活発に話し合った雰囲気は少し変化したように感じられる。

また、教頭が行ってきた課題研修への取り組みも、今までの積極的参加型から消極的参加型へと少し変化が見られた。次年度から知恵を出し合い工夫し、良い教頭連絡会にしたいと考える。

○13年度日程

- 第1回 4月27日（金）江北高校14時～
- 第2回 5月14日（月）足立高校14時～
- 第3回 6月12日（火）台東商業高校14時～
- 第4回 7月13日（金）荒川工業高校14時～
- 第5回 9月12日（火）白鷗高校台風のため中止
- 第6回 10月16日（火）荒川商業高校14時～
- 第7回 11月13日（火）竹台高校14時～
- 第8回 12月11日（火）上野高校14時～

第9回 1月22日（火）忍岡高校14時～

第10回 2月18日（月）上野忍岡高校14時～

第11回 3月12日（火）白鷗高校14時～

○13年度転出入

今年、佐藤榮（竹台）が（葛西南）校へ松本隆（白鷗）が（忠生）校長へ栄転され、間宮（墨田工業月島分校）副校長として、島田（竹台）両国定時制から、酒井（荒川工）が小石川定時制、星野（白鷗）が新たに転入した。

○13年度活動状況

5学区の教頭連絡会の情報交換は、主に、自分の学校の問題等をあげ、色々な校種、職場の状況が違う視点から質疑応答が行われた。日頃、情報不足のより校務多忙で解決できないことが多いので情報交換は非常に有意義であった。

自校に置き換えて考え、建設的な意見や数多くのヒントがあり、良い機会となった。

いつも多様な視点からの問題提起をされ準備している、磯部（足立東）出井（足立西）藤松（青井）荒川（足立新田）。解決できない要因はなにか、現状を踏まえ意見する、三木（上野忍岡）瀧上（蔵前工）國分（晴海総合）酒井・鍋谷（荒川工）、星野（白鷗）。できないながらもどのように解決しているのか解決策を論じる、飯田（上野）島田（竹台）小島（足立工）大本（荒川商）。時には法的根拠を示す、土肥（晴海総合）鈴木（台頭商）矢嶋（足立）。また、各教頭の今までの経験を生かした発言でまとめる役、石橋（日本橋）菅又（忍岡）合津（蔵前工）。さらに全体の進行を調節する、山際（淵江）。話題によって先生方の役割は、いつも変化するが、個性が強く、しかし、柔軟性に富んだ5学区の情報交換会であった。

○5学区都立校合同説明会

5学区の学校説明会は、昨年度より立ち上げ全員で協力し、足立区北千住の「学びピア」で開催した。今年も同様、島田（竹台）が中心となり5学区の高校説明会を実施した。昨年度よりそれぞれの高校が、工夫を凝らし校長や教員が積極的に参加し、新聞報道に掲載し説明会参加者も増えた。

5学区教頭研修会（親睦旅行）

3月23日（土）24日（日）にかけ多忙な時期であるが有志を募り行う予定である。

常任幹事 高田幸一（江北）記

6. 第6学区高校教頭会

今年度から、学区教頭会は新設された「教頭連絡会」の後に設定されることになったので、例年この欄で報告している「定例会」の内容の大半は、月ごとの教育委員会による教頭連絡会において済んでいる。連絡会終了後の定例の教頭会では、本学区は概ね各月とも次のような次第で実施している。

- | |
|--------------------|
| 1 教頭幹事会（または総務部会）報告 |
| 2 研究部の連絡報告 |
| ①管 理 研（第1・第2委員会） |
| ②高校教育研（第1・第2委員会） |
| ③生徒指導研（第1・第2委員会） |
| 3 協議・情報交換 |
| 4 その他 |

6学区教頭会の構成員は、27校（普・商・工・農・単位制・定時制単独商）31人である。新任から今年度ご退職の大ベテランまで、経験も年齢（最高14歳差）も実に幅広い。定時制の教頭を経て全日制の教頭（私もその一人だが）としてあるものもいる。しかし、定時制で何年経験を積もうと、全日制教頭会では1年生からはじまるので、わたしのように全・定ともに幹事を果たす者も珍しくない。さらに今年度は、東京都立高等学校教頭会の会長・副会長の任に当たられているお二方を擁しているので心強い限りである。幹事会や総務部会報告など、質問があっても不明な点はダイレクトに伺えるという利点があった。

今年度教頭会での情報交換は、14年度からの土曜日対応等をはじめとした当面する課題について行ったが、教頭連絡会の全・定共通の情報交換の場で概ねは済んでいる。特に6学区としては、10月に実施した「6学区都立高等学校合同説明会」（学区校長会主催）を目前にして、会場校となった両国高校から、校長会で出された実施要項と会場校としての実施要項をもとに当日の案内とそれに伴う質疑応答を実施したことである。これは全校が共通して必要な情報であり、当日の円滑な実施に効果があった。隣接の学区でも当日学区の都立高等学校説明会を開催するというので、参加者の減少を危惧して

いたが、中学生約1800名、保護者約1400名の総数3248名の参加を得て盛況であった。

さて、情報交換で定時制から移って感ずることは、これもよく言われることであるのだが、情報交換の密度や協議内容の深まりが異なることだ。理由は学校数が多く、課程の違いや普通科同士でも学校の特色や特性が異なっており、定時制のように共通の基盤がなかなか設けにくいことによるのだと言われている。その結果、一問一答式の交換に終始せざるを得ないのだと感じている。加えて各校様々な固有の対応があり、この時代一律の結果を迫られる割には、その道筋が多岐で一様には論じられないからなのだろうと個人的には受け止めている。常任幹事としてももう少し突っ込んだ情報交換がなされるよう工夫できていたらと反省している。

なお、記録として今年度教頭連絡会（全・定合同）の会場として、その後の「教頭会」の会場としてもあった会場校を以下掲げておく。

- | | | |
|------|----------------|---------------|
| 第1回 | 平成13年4月27日（金） | 葛飾商業高校 |
| 第2回 | 平成13年5月14日（月） | 葛飾野高校 |
| 第3回 | 平成13年6月12日（火） | 両国高校 |
| 第4回 | 平成13年7月13日（金） | 隅田川高校 |
| 第5回 | 平成13年9月11日（火） | 江戸川高校 台風のため中止 |
| 第6回 | 平成13年10月16日（火） | 本所工業高校 |
| 第7回 | 平成13年11月13日（火） | 水本高校 |
| 第8回 | 平成13年12月11日（火） | 葛西南高校 |
| 第9回 | 平成14年1月22日（火） | 科学技術高校 |
| 第10回 | 平成14年2月18日（月） | 葛西工業高校（予定） |
| 第11回 | 平成14年3月18日（月） | 墨田工業高校（予定） |

常任幹事 國分丈夫（両国）記

7. 第7学区高校教頭会

第1回 平成13年4月27日(金)(全定合同)

八王子工業高校 出席者24名

1. 会場校内田校長挨拶
2. 新役員紹介：常任幹事 津田(富士森)
幹事 宗像(八王子東) 芝尾(南多摩)
3. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①教頭連絡会実施の主旨
 - ②校長連絡会(4月24日)の内容
 - ③事故報告、周年行事該当校調査、他
 - ④質疑応答：合同学校説明会について、他
4. 情報交換：車通勤、自己申告書、校医、他
5. 第1回総務部会報告
多摩地区全日制教頭会の発展的解散、他

第2回 平成13年5月14日(月)

八王子高陵高校 出席者23名

1. 会場校星校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①校長連絡会(5月8日)の内容
 - ②事故報告、水泳事故防止、教科「情報」講習会参加者の推薦、他
 - ③質疑応答：部活動費査定について、他
3. 情報交換：自己申告書、面接、授業観察他

第3回 平成13年6月12日(火)(全定合同)

富士森高校 出席者23名

1. 会場校佐藤校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①校長連絡会(6月5日)の内容
 - ②事故報告、教育課程編成基準・資料説明会、教科「情報」・司書教諭講習者募集他
 - ③質疑応答：中学の調査書について、他
3. 情報交換：授業観察、授業公開、期末考査後、特別指導日数、他

第4回 平成13年7月13日(金)

日野高校 出席者23名

1. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①校長連絡会(7月10日)の内容
 - ②事故報告、早期選考防止、他
 - ③質疑応答：授業日における高野連理事校の生徒補助員、土曜日の講習他
2. 情報交換：土・日のPTA活動、PTA通帳名義、部活動費、期末考査後他

第5回 平成13年9月11日(火)

大型台風接近のため中止

第6回定例会 平成13年10月16日(火)

南平高校 出席者23名

1. 会場校盛校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①校長連絡会(10月9日)の内容
 - ②事故報告、火災発生の防止、牛の眼球等の使用禁止、沖縄修学旅行について、他
3. 協議：「総合的な学習の時間」の導入
4. 情報交換：修学旅行対応、PTA私費職員、学校評価、他

第7回 平成13年11月13日(火)全定合同

町田高校 出席者23名

1. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①校長連絡会(11月6日)の内容
 - ②事故報告、卒業式・入学式における適正な国旗掲揚・国歌斉唱、火災の防止、他
2. 協議

①各教科・科目の年間授業計画の作成

②主任制度に関する中間のまとめ－人事部

3. 情報交換：期末考査後、PTA活動日、他

第8回 平成13年12月11日(火)

忠生高校 出席者23名

1. 会場校松本校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①校長連絡会(12月4日)の内容
 - ②事故報告、平成14年度修学旅行実施予定調査、学校設定教科・科目の申請、他
3. 協議：2学期末考査終了後の「期間」の状況について
4. 情報交換：新カリ編成状況、混合名簿、他

第9回 平成14年1月22日(火)

野津田高校 出席者22名

1. 会場校松尾澤校長挨拶
2. 教育委員会より連絡－坂本指導主事－
 - ①校長連絡会(1月15日)の内容
 - ②事故報告、教育課程届出説明会における質疑について、授業公開について、他
3. 服務事項に関する情報提供－町田副管理主事－
4. 情報交換：学校説明会の日程、体験入学実施の有無、授業公開日程及び態様、来年度期末考査後について、学力検査採点日について

第10回 平成14年2月22日(火)

成瀬高校 予定

第11回 平成14年3月12日(火)

小川高校 予定

常任幹事 津田久枝(富士森)記

8. 第8学区高校教頭会

〈地域の状況〉

第8学区は、立川市、昭島市、福生市、羽村市、青梅市、武蔵村山市、東大和市、あきる野市、瑞穂町、奥多摩町、日の出町、檜原村の8市、3町、1村の全都で最も広大な地域をかかえている学区である。各校とも交通アクセスはきわめて悪く、JR青梅線・五日市線が止まってしまうと生徒の代替通学手段が全くなく、学校生活に影響を及ぼすこともしばしばである。教頭の中には都庁までの出張に学校から2時間余りかかる方が大勢いる。

周辺に私立高校は少なく、中学生の都立高志向が強い学区である。しかし、来年度からの学区制廃止に伴い、他学区に学区の中学生が流れるのではないかと危機感をもっている。

本年度より教頭連絡会後に実施されることとなった学区教頭会も学区担当指導主事のご配慮により、例年と変わりなく、実りの多い協議、情報交換を実施することができた。

今年度の学区教頭会としてとりあげた情報交換及び協議事項の主な内容は以下の通りである。

- ① 14年度よりの週5日制に伴う学校行事、PTA等に係わる諸問題について
 - ・学校説明会は各校とも中学生の状況を考慮すると土曜日実施となる。その場合、授業と組み合わせると全日日程とし、他の曜日に休日を振り替えることになる。
 - ・保護者会は今年度までは各校とも土曜日を中心に実施してきた。教職員の服務については勤務時間の割り振り変更で対応してきた。しかし、14年度からはそれも不可能になる。平日の実施が中心となるが、保護者の都合から年1回は土曜実施もやむをえないと考えている。
 - ・PTA総会、PTA常任委員会等の土曜実施においては管理職が交替で出勤することに決めている学校も多い。
 - ・第8学区は学区PTAの交流が盛んである。学校対抗のPTAソフトボール大会・バレーボール大会も実施している。そのための練習としてPTAの土日・夜間等の学校施設使用もあり、多くの学校では教頭が対応している。学校によってはPTAに機械設備のカード等

を貸し出しているところもあるが、各校、事情も異なることから、完全に教員なしで施設を貸し出すところまで至っていない。

週5日制に伴う保護者・PTAとの連携は現在、教頭の最も苦慮している問題である。今後も学区として都高PTAを交えて協議していく予定である。

② 沖縄修学旅行について

9月11日の同時多発テロ以降、沖縄への修学旅行を計画していた多くの都立高校が中止の方向に動いた。9月の学区教頭会では各校の情報交換をした上、指導部からの助言もいただき、安易に中止しない方向で協議した。

その結果、現地と学校との密接な連絡、正確な情報収集、学校と家庭との連携を経た上、8学区の多くの学校は予定通り沖縄旅行を実施した。沖縄と同じように基地を抱えているという地域の特殊事情もある。

不安がなかったといえようことになるが、実施した学校は、積み上げてきた平和学習の実績を無駄にすることなく、大きな成果をあげた。

③ その他

- ・期末後の授業及び行事日程について
- ・学校のホームページ作成のガイドラインについて
- ・吹奏楽部の高校野球応援時の取扱いについて
- ・校内の安全管理の問題について
- ・都立高校合同説明会の多摩地区開催の要望について

第8学区では情報交換時に時々、「明るい話題シリーズ」と称して各校で活躍する生徒・教職員の様子を伝えてもらっている。ささやかなものであるが、各校の成功体験は、教頭を元気づけると同時に、自校でも実施可能な道を探るための重要な示唆を与えてくれる。

常任幹事 内田志づ子（砂川）記

9. 第9学区高校教頭会

本年度からは教頭会のあり方がこれまでとは大きく様変わりするという事で、今後どのような勤務形態や、どのような業務内容になっていくのか、会員一同、不安を持ちながら第1回の会議に臨んだ。しかし、学区担当の田神指導主事のきめ細かなリードにより、9学区の教頭連絡会はこれまでと同様に有意義な会として機能していった。以下は、その記録であるが、指導主事からの連絡・報告・指示等はすべての学区が同じであるので、ここではその後の意見交換・情報交換で協議されたこと等を中心にまとめる。

第1回定例会

4月27日（金） 保谷高校

①宮崎校長挨拶

- ・教頭の姿勢により学校は変わる。

②自己紹介

- ・新たに6人の異動されてきた先生方を迎え新鮮な出発となった。

③通年の授業公開について各校の状況

④週休日の部活動の取扱いについて

第2回定例会

5月14日（月） 小金井工業高校 多摩地区定時制との合同会議

①高間校長挨拶

- ・今日の教育状況と教頭の役割

②学務部の土屋係長が参加する。

- ・授業料未納者等に教頭がどのように対応すればいいのか説明に来る。

③教科「情報」について

第3回定例会

6月12日（火） 田無工業高校

①国廣校長挨拶

- ・田無工業高校の取り組み、教頭激励

②車通勤者の取扱いと教頭の対応について

③体験入学の各校取り組みについて

第4回定例会

7月13日（金） 武蔵高校 多摩地区定時制との合同会議

①菊池校長挨拶

- ・職員の意欲をどのように引き出すか。
- ・書類の整理の仕方。

②学校運営連絡協議会の各校の状況

③授業公開の各校の状況

第5回定例会

9月11日（火） 武蔵野北高校

①校長出張のため、すぐに会議に入る。

②総合的な学習の時間について

③期末考査後の授業のありかた

第6回定例会

10月16日（火） 小金井北高校

①小泉校長挨拶

- ・校長と教頭の関係

②沖縄の修学旅行の状況

③調査書のパソコン対応について

第7回定例会

11月13日（火） 田無高校

①八代校長挨拶

- ・これからの都立高校

②14年度の土曜日の活用

③教科「情報」の各校の取り組み

第8回定例会

12月11日（火） 久留米高校

①渡部校長挨拶

- ・これからの学校運営のあり方

②期末テスト後の各校取り組み状況

③教員の服務について

第9回定例会

1月22日（火） 久留米西高校

①天野校長挨拶

- ・教頭の健康管理と激励

②柿添管理主事による「服務事故の対応と防止」の講演。事例を用いての説明は非常に参考になった。

③次年度の特認研修と土曜日の取り組み、各校の状況について

常任幹事 清原敬一（国分寺）記



10. 第10学区 高校教頭会

今年から教頭連絡会に引き続く形で、学区教頭会が開催されることとなった。その中では、教育課題に対して、各校の取り組み状況の情報交換を重視し、先駆的な取り組みをしている学区の例を参考にさせていただいたりした。

また、学区担当指導主事より適切な助言をいただいたり、時として、オン、オフを問わず、お互いに気楽に助言をしたりして、有意義な教頭会とすることができた。

1. 指導部学区担当

大室文之指導主事

2. 転入者 4名

大矢保雄（狛江）、小暮正利（府中）

橋本 昇（府中東）、立石武則（府中工業）

※府中工業高校、狛江高校は今年から教頭が複数配置。

3. 教頭会報告

第1回定例会 南野高校

平成13年4月20日（金）

(1)研究部会の所属

(2)教頭会関係のサービスの取り扱い

(3)勤務時間の割り振り

第2回多摩地区教頭会臨時総会 八王子労政会

平成13年4月21日（土）

「多摩地区教頭会」発展的に解消を決定

第3回定例会 南野高校

平成13年4月27日（金）

(1)各研究部会報告

(2)スクールカウンセラー

(3)多摩地区教頭会

第4回定例会 狛江高校

平成13年5月14日（月）

(1)自己申告、授業観察、面接

(2)新カリキュラム、総合的な学習の時間

(3)勤務時間の割り振り

(4)期末考査後の授業

(5)業務サービス監察

(6)機械警備

第5回定例会 調布北高校

平成13年6月12日（火）

(1)出勤監査（中）

(2)新教科「情報」現職教員等講習会の参加者の推薦状況

第6回定例会 府中西高校

平成13年7月13日（金）

(1)新教育課程説明会

(2)期末考査後の授業

第7回定例会 調布南高校

平成13年9月11日（火）

台風のため中止

第8回定例会 農業高校

平成13年10月16日（火）

「総合的な学習の時間」についての研究協議

第9回定例会 国立高校

平成13年12月11日（火）

(1)期末考査後の授業

(2)スクールプラン

(3)新カリキュラムにおける卒業単位数

第10回定例会 三鷹高校

平成14年1月22日（火）

(1)新カリキュラムにおける7時限の設定校

(2)修学旅行における水辺活動

(3)平成14年度におけるPTA活動の曜日

常任幹事 和田吉廣（南野）記



11. 島しょ地区高校教頭会

島しょ地区教頭会は、大島・大島南（舎監長を含む）・新島・神津・三宅（舎監長を含む）・八丈・小笠原の7校9名で構成しているが、定例会等には大島及び八丈の定時制も参加し、合計11名で行っている。昨年までは、地理的環境・交通事情等の理由で月例会の形で定期的に開催することができなかったが、今年度より教頭連絡会が月1回開催されたことにより、全体の連絡会が終了後、島しょ地区教頭会をもつことができ、従前より情報交換の機会が増え有意義な意見交換ができた。

- 第1回 4月27日（金） 八潮高：教科「情報」の開設年度や実施学年、低学力生徒の対応などについて情報交換を行う。
- 第2回 5月14日（木） 日比谷高：教科「情報」の免許取得のための講習会への出席に伴う旅費についての情報交換。校内予算で処理しなければならない状況下においては、島しょ地区からの出席には無理があるなど、旅費に関していろいろと意見交換を行う。
- 第3回 6月12日（火） 一橋高：教科「情報」等の講習会出席に伴う旅費について、事務室の協力もあり、別途予算を措置していただけた見通しが立ち、講習会への出席が可能になったことなどを報告する。図書館司書教諭についても同様に予算措置をしていただけたことになった。また、自己申告書の提出及び面接、授業観察の各校の実施状況、さらに、期末考査後の授業計画などについて情報交換を行う。
- 第4回 7月13日（金） 九段高：教員の島外における研修の実態についての情報交換を行う。
- 第5回 10月16日（火） 雪谷高：入学選抜において学区撤廃に伴う島しょの扱い、自動車による出張及び「総合的な学習の時間」の実施内容などについて情報交換を行う。
- 第6回 11月13日（火） 大森高：島しょの高校は他校との練習試合等の交流の機会が極めて少ない。そこで、八丈の呼びかけで島しょ地区と都内の高校との部活交流会について、その実施可能性を探るために各校の部活顧問に対してアンケートを実施することとした。

また、2学期考査末の授業等の実施内容について情報交換を行う。

- 第7回 12月11日（火） 芝商：図書館開放の実施校及び管理者などについての情報交換を行う。また、部活交流についてのアンケート集計に基づいて、具体的な内容について意見交換を行う。特に、旅費や実施場所、時期等大きな問題が残っているが実施する方向で検討する。また、英語指導助手の配置について意見交換をもつ。昨年までは各島1人の配置であったが、今年度より大島（大島高と大島南高で1人）八丈で1人、新島と神津で1人、三宅と小笠原で1人となっている。特に新島・神津と三宅・小笠原では半年毎の勤務形態になっており大きな影響を及ぼしている。予算的な面もあるが1島1人の配置をお願いする。

- 第8回 1月25日（金） 都庁第一本庁舎：教頭連絡会の開催日が都合により変更となり島しょ地区のみ別に実施する。島しょ地区と都内高校の部活動交流会について夏季休業中に実施の方向で検討を進めることなど最終確認を行う。また、東海汽船の大島航路の運行が従来と変更になることによる出張等のあり方について情報交換を行う。また、校内規定及び学校評価アンケートをもちより各校の取り組みについて確認する。

三宅島・神津島・新島の火山・地震災害が起これ、三宅の全島避難になってから1年半が過ぎたが三宅島においては帰島の目途すらたっていない。また、神津島・新島においても未だに復旧作業が行われており、正常な生活をおくるにはまだまだ時間がかかる模様である。

島という地理的環境・交通事情でなかなか研修会や各種の委員会などに出席できずに多くの面でご迷惑をおかけしています。

ところで、生活路線である東海汽船の大島航路の運行が4月から大きく変更になる。従来就航していた竹芝発の東京船（大型客船）が金・土・日の（上り船については土・日・月）のみの運行となる。研修・出張など今後、島しょ各校における新たな課題となってきた。

常任幹事 若井文隆（大島）記

5. 学科別支部教頭会報告

1. 普通科高校教頭会

1. 普通科教頭幹事会

平成13年5月31日（木）エミール

15時30分～17時00分

議 事

- (1) 平成12年度 事業・決算・監査報告
- (2) 平成13年度 役員推薦
- (3) 平成13年度 事業計画・予算案
- (4) 平成13年度総会役割分担等を検討

2. 普通科教頭会総会

平成13年6月14日（木）星陵会館

13時30分～15時10分

議 事

- (1) 平成12年度 事業報告
- (2) 平成12年度 決算および監査報告
- (3) 平成13年度 役員選出
- (4) 平成13年度 事業計画
- (5) 平成13年度 予算承認
- (6) その他

3. 会員異動

平成13年3月31日付

退職者 4名

平成12年4月1日付

校長栄進者 24名

全日制からの転任者 15名

定時制からの転任者 17名

新任者 14名

休職者 0名

4. 活動に関して

今年度は、普通科教頭会としては、講演会学校訪問等の特に目立った活動はできなかった。

都立高校の凋落が言われ、高校改革が進められて久しい。しかし、普通科高校の特色ある学校づくりはなかなか難しいように思われる。例えば、コース制の導入にしても、導入当時は、成果が認められても、しばらくすると改革の効果が失くなって来るように思われる。その一つの見方として、新しいタイプの高校を作ると、

入口の問題としては、目新しく、入学生を引きつけることができる。しかし、しばらく経つと出口の問題として、新鮮味がないと、効果が薄れるのではないだろうか。卒業時に、そのコースに見合った資格が取得できるとか、そのコースに合った大学の学部に入学することが有利になるとか等の特徴がないと持続効果が期待できないと思われる。

入試制度の改革をはじめ、コース制の導入、総合学科の導入、単位制高校の設置、チャレンジスクールの設置、入試問題の自校作成、進学重点校の導入、最近では、中高一貫教育校の導入と、次々と新しい改革が行われている。このような高校改革が次々と行われる現在、教頭として、どのような、斬新なアイデアを見出し、校長を補佐して、改革の実を上げ、より長く、維持発展することができるか、困難な時期に、直面しているのではないだろうか。普通科、専門学科との境界が曖昧になりつつある今日、普通科教頭会として、どう取り組んで行くのか難しいことである。いずれにしろ、教頭一人一人の自覚の高揚と実行が急務である。

副会長 矢嶋邦男（足立）記



2. 工業高校教頭会

工業教頭会は、今年度から教頭連絡会のある日の午前中、交通至便な教職員研修センター分館で都立工芸高校を会場にお借りし開催している。その日は、午後から教頭連絡会、学区教頭会と続けて開催されるため、学校に戻ることができない。そのため、朝一度学校へ出勤してから工業教頭会に出席したいという要望が強いので、始まりは10時にしている。

しかし、工業高校は全部に分散しているため、一度学校に寄ってからでは間に合わない所も存在する。終了は12時であるが、このような工高に勤務している教頭は、午後の教頭連絡会もその地域の高校で行われるため、昼食の時間もとれない状況で戻って行かなければならない。

工業教頭会は、工業高校特有の山積する課題について研究協議を行う必要があるが、このような現状で議論を深める時間が足りない。また、工業高校は大半の学校が、教頭二人制である。教頭会への出席は各校原則1名としているが、事情により1名が固定していない学校もあり、普通教科の教頭も増えている。そのため、運営について検討する時期にきていると感じる。

資源の乏しい我が国の人々が豊かな生活を営むためには、工業製品の輸出による外貨獲得が必要である。しかるに、工業は世界で最も自由化が進んでいる分野である。開発途上国が技術の向上によって同じ製品を作ることができれば値段の勝負になる。我が国は人件費の高騰により開発途上国と同じ製品では太刀打ちできない。そのため産業の空洞化が進んでおり、国内生産は、技術的に高度なレベルの高付加価値製品が要求されている。そのため、工業人には、

- ①外国の文献を読みこなす語学力、高度な数学等を駆使できる学力、創造力をもった人、
- ②それに応えられるものづくりのできる人、高付加価値製品の保守点検・維持管理のできる人、が求められている。

工業高校卒業生は後者を担うものと考えられ、工業高校には、それに答えられる教育が産業界から求められている。

工業高校教育には、経済発展や国家社会のための人づくり、21世紀の日本を担う人材の育成をはかるという目標があり、このことを念頭に

入れて教育課程は作られるべきである。現在、それを踏まえて各学校はそれぞれ特色ある学校づくりを目指している。夏季休業中に下記の工場見学会を企画したが、工業高校教頭40名のうち参加は12名であった。卒業生の働いている現場、産業界の動向を勉強することも教育課程を考える際、重要なことではないかと考える。もっと参加しやすい配慮を各方面に期待する。

管外研修会を開催

8月28日（火）から29日（水）まで1泊2日で愛知県立碧南工業高等学校とトヨタ自動車株式会社の見学研修会を行った。1日目の碧南工業高校では、学校側からの説明と校内見学を行った後、環境工学科の課題研究で行っているビオトープと電子工学科が主体となって進めているインターネット及びLANの活用について協議を行った。教職員が全校あげて、地域に根付いた環境教育に取り組んでいる姿を見学し、学校づくりの示唆と刺激を受けた。

2日目のトヨタ自動車(株)では、工業高校の卒業生が従事する現場の生産ラインを見学した。生徒が巣立っていく産業界の現状を直接目にすることができ、工業教育の推進と改善に得るものが多かった。

研究発表会を開催

12月21日（金）の午後から職免で、工業教頭会の研究発表会を行った。これは、日頃の工業教頭会で全員が3グループに分かれて行っている研究協議のまとめである。後日冊子にし、各工業高校等に配布することになっている。会場に教職員研修センター分館をお借りし、指導助言に都立田無工業高校の國廣校長に出席いただいた。最初に國廣校長から体験を基にした「教頭として努力したこと」と題する講演をいただき、教頭としての日々の姿勢から校長になる心構え等について貴重なお話を伺った。その後、3つのテーマで研究発表が行われた。

1つ目は「工業教育改善の視点」と題して八王子工業高校の大山教頭が発表を行った。

本研究では、平成10年7月教育課程審議会答申で示された「教育課程の基準改善の基本的考

え方」の主な課題に関する基本的な考え方をもとに下記の項目について、今後の工業教育改善の視点を検討している。

(ア) 道德教育 (イ) 国際化への対応

(ウ) 情報化への対応 (エ) 環境問題への対応

(オ) 少子高齢化への対応 (カ) 横断的・総合的な学習、教育課程の基準の大綱化・弾力化

2つ目は、「生徒指導における学校と地域社会の連携のあり方」と題して、府中工業高校の高橋教頭が発表した。

これは、前年度の研究成果をさらに押し進め生徒を積極的に地域社会、下位学校、上級学校へ関わらせることによって工業高校の活性化への解決策を模索したものである。

今後の連携の中で、「生徒をどう活動させるか」、「どのような活動が考えられるか」について考察し、積極的な生徒の活動を支援し、促進していくための方策や提言を行い、実践例を収集することによってこの研究が工業高校の活性化を促し、新しい工業教育の一側面となることを期待している。

3つ目は、「工業高校の個性化・特色化を目指す学校経営の在り方」学校運営連絡協議会を通してと題して荒川工業高校の鍋谷教頭が発表した。

これは、今年度からすべての都立高校で実施されることになった学校運営連絡協議会を通して、工業高校が個性化・特色化を図り、いかにして学校改革につなげるかについてその方途を探っている。

工業校長会との交歓会を開催

12月26日(水)学務部と工業高校の校長・教頭との意見交換会が行われた。その後、午後6時から、都庁第一庁舎32階の職員食堂で校長、教頭交歓会を行った。現在、三者懇の廃止により、校長、教頭が一堂に会することもなくなり、他校の校長、教頭の顔も判然としない事態が生じている。

都立工業高校の活性化を図るため、全体で力を合わせていこうという趣旨で行われたが、参加者が多く好評であった。

工業科常任幹事 相川英昭(港工)記

3. 商業高校教頭会

商業教頭会は、今年度からの出張に関する服務規定の見直しにより、毎月、教頭連絡会当日の午前中に定例会を開催することとした。商業高校は全都に分散して位置しているので、東京のほぼ中央にあり、比較的交通の便のよい所ということで、赤坂高校・市ヶ谷商業・芝商業の3校を輪番の会場として定例会を開催した。午前中が商業教頭会、午後が各学区の教頭連絡会ということで、定例会当日は平常より早く出勤し、朝の事務処理を迅速に済ませ、毎回走って商業教頭会の会場に出かける教頭も少なくなかった。中には昼食抜きで午後の教頭連絡会に向かう教頭もいた。また、後述するように、今年度は東京が担当県となる商業関係の大きな催し物を2つ抱え、例年よりも事前準備が必要な状況の中で、定例会にも少し時間をかけたかったというのも率直な感想である。緊急の打ち合わせ会は年休や勤務時間外で対応し、正に手弁当の裏方活動であったと言っても過言ではない。少々オーバーな言い方をすれば、現在、商業教頭会は歴史の大きな転換期を迎えているのであるから、今後は定例会も短時間で大きな成果をあげられるよう、より効率的に運営しなければならないと思っている。

今年度は11月5日に一都七県の関東地区商業関係高等学校教頭研究協議会(関東ブロック大会)が「21世紀に活躍できる人材の育成を目指してーいま商業高校は何をすべきかー」をテーマに全国商業高等学校協会・全商会館において開催された。これは、関東地区の一都七県が輪番で開催県を担当し、各都県の教頭代表が商業教育に関する研究発表をする、49年の歴史をもつ研究協議会である。例年は1泊2日で開催されていたが、本年度は東京が開催県ということで、交通の利便性や服務の問題等から1日のみの開催という形式をとった。1日のみの開催とは言え、東京の商業教頭会の綿密な事前打ち合わせ及び献身的な働きにより、内容は例年に勝るとも劣らないものとなり、成功裏に終えることができた。

また、11月14日と15日には全国10ブロックの熾烈な予選を勝ち抜いた代表生徒による全国高等学校生徒商業研究発表大会(生徒商研)が

東京の駒澤大学記念講堂で開催され、全国から21団体の生徒が商業に関する研究発表を行った。この会の準備から運営に関しても商業教頭会の献身的な努力があったことは言うまでもない。大会運営そのものに関わる仕事のみでなく、1700人を越える都立商業高校の参観生徒の割り振り作業等、裏方を担当する教頭達は正に鬼気迫る意気込みで職務を遂行し、大会を立派に成功させた。

以上、今年度の商業教頭会は定例会の開催方法の変更や、8年や10年に1回の関東及び全国レベルの催し物を担当し、例年以上に実力を発揮した一年であった。天が商業教頭会に試練を与え、その試練を見事にクリアできた一年であったと思っている。唯一の無念は、本年1月に第四商業の大倉教頭が若くして永遠の旅立ちをされたことである。私事ながら大倉教頭とは元同僚、年齢も教頭経験も全く同じ、正に戦友とも言うべき友を失い、残念至極である。心よりご冥福をお祈りしたい。

【平成13年度商業教頭会活動内容】

第1回定例会 赤坂高校

平成13年4月27日（金） 10:30～

1. 都教委 高田憲一指導主事
総合技術教育センター 高橋雅信指導主事
2. 着任紹介・商業教頭会役割分担
3. 関東ブロック大会・生徒商研役割分担

第2回定例会 市ヶ谷商業

平成13年5月14日（月） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 関東ブロック大会統一テーマ検討
3. 生徒商研役割分担再確認

第3回定例会 芝商業

平成13年6月12日（火） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 関ブロック大会統一テーマ決定
3. 9月教頭会総会
4. 7月全国教頭研究協議会

第4回定例会 赤坂高校

平成13年7月13日（金） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 新教育課程の方向性
3. 学校外の学修の単位認定

第5回定例会 市ヶ谷商業

平成13年9月11日（火） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 「課題研究」と「総合的な学習の時間」
教科「情報」と「情報処理」

第6回定例会 芝商業

平成13年10月16日（火） 10:00～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 生徒商研最終打ち合わせ
3. 関東ブロック大会最終打ち合わせ
4. 商高連（運動部）大会引率出張

第7回定例会 芝商業

平成13年12月11日（火） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 生徒商研・関東ブロック大会総括
3. 都教頭会会則見直し
4. 都教頭会・全国教頭会役員推薦
5. 卒業単位・体験入学情報交換

第8回定例会 赤坂高校

平成14年1月22日（火） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 都教頭会役員推薦・商業教頭会幹事推薦
3. 就職決定状況情報交換

第9回定例会 市ヶ谷商業

平成13年2月18日（月） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 新教育課程編成進捗状況

第10回定例会 芝商業

平成13年3月18日（月） 10:30～

1. 都教委・総合技術教育センター
2. 平成13年度活動総括
3. 平成14年度活動計画

商業科常任幹事 森田聖一（赤坂）記

4. 農業高校教頭会

平成13年度の本教頭会は、毎月1回の教頭連絡会の当日の午前、都立農業高等学校を会場にして開催した。例年と大きく異なるのは、全日制・定時制の両教頭が出席したことである。

毎回限られた時間の中で、都教委及び都総合技術教育センターの指導・連絡、及び研究協議と情報交換が繰り返された。本年度は都立三宅高校が秋川の地に仮住居ということもあり、幅広い議論が展開された。1年を振り返れば、次のような協議であった。以下、主とした取り組みを列挙する。

①開かれた学校づくりへの取り組み

農業科高校は、公開講座「ことぶき教室」を各校で長年実施しており、また、都庁花壇の植栽を分担するなど、各校協力しての取り組みを継続してきた。農業教育の意義を広く都民にアピールするためには、各校の教育活動を公開し、生徒の育成に向けての具体的な取り組みに理解を得ることが不可欠である。各校の特色を生かしての地域との連携活動を組織的かつ継続的に実施していくために、教頭としてどのような指導力を発揮していくのか、単なる情報交換に止まらない互いの実践例に基づく議論であったと思う。

各校は市区町村地域活動との連携を深めている。今後その実践を、協力したり取り組みに発展させる必要がある。

②都立三宅高校への支援

春の都庁花壇の植栽に都立三宅高校からの参加の意向が示され、本教頭会として全面的に支援することとなった。結果としては全校からの支援とはいえなかったが、都庁花壇に三宅の生徒の活動が見られたことは幸いであった。

③関東地区農業クラブ連盟大会の開催支援

8月23、24の両日、府中の森芸術劇場を中心会場に、第52回大会を東京都農業科高校の生徒・教職員が担当して開催した。関東1都8県の農業科高校の生徒による、プロジェクト発表や意見発表、都立農芸高等学校を会場にした情報処理競技が実施された。大会式典においては農業を学ぶ各高校の生徒たちの生き生きとした姿がみられた。教頭会として、校長会の指導のもとに、各高校の組織的な運営を支援し、綿密な

議論を展開した。

④全国高校農場協会関東支部大会の開催支援

8月20、21の両日、立川市のホテルを会場として、東京都農業科高校が担当して第50回大会を開催した。農業教育に携わる教員の研究発表を中心に1都8県の教職員・指導主事による研究協議が実施された。教頭会としては運営にあたる教職員への指導を主として、農業教育の改善に向けての議論を継続した。

⑤農場主任会議の指導

一時途絶えていた各高校の農場主任会議を、平成12年度より定例化し、今年もその協議の指導にあたった。新教育課程の編成に向けての協議を中心に、各高校の実質的な連携を深めることを目指した。その協議を通じて、平成10年度から各高校が参加している「アグリフェスタ（東京農業際）11月2、3日」への取り組みについて、生徒の参加が実施し、東京の農業科高校の存在をアピールできた。また、11月18日の「都立高校合同説明会」への各高校の協力した取り組みも実現できた。

新教育課程の編成進度には各高校に相違があり、お互いに刺激し合う場ともなった。特に、「総合的な学習」と「課題研究」、「情報」と「農業情報処理」との各関連、学校5日制に向けての取り組み等について指導した。

⑥都農業高等学校教育研究協議会の活動支援

年間に専門部会、普通科部会、事務部会の研修活動を実施し、年度末には総会・研究発表を実施している。教頭会として各研修会の指導にあたった。

⑦関東甲信地区農業関係高校教頭会での協議

文部科学省教科調査官による「総合的な学習の時間」編成についての御教示があり、また、関東地区の各農業科高校の研究発表を通じて、特色ある取り組みについて得るところ大であった。参加教頭は、校内での検討資料として提示し、早速教員の派遣による研修を実現した学校もあった。

以上、主な取り組みを挙げたが、無論、課題も多い。東京都における農業教育の発展を図るという観点から、以下の点を挙げたい。

①各高校の取り組みの協力

都内の農業科高校は、各地域に点在しており

地域との密着度は多様である。しかし、生徒の育成を図る上で、学習活動の場を広げる試みを協力して促進する必要がある。現在、各高校で進めている次のような取り組みをより推進するよう主導しなければならない。そのためには以下の点が挙げられると考える。

- ・学校運営連絡協議会の各学校評価の集約

各高校に対する評価はさまざまとしても、農業教育に何が期待されているのかを的確に把握する必要がある。よりよい食と都市環境の創造に対して、農業科高校の教育活動が貢献し得ることを具体的な方策として示さねばならない。

教頭会として、教育課程の改善・教育方法の工夫を推進するために、都民・地域の肉声を集約し、各校の取り組みに供する必要がある。

- ・インターンシップの拡大

環境系学科（造園科・緑地計画科等）や食品系学科においては、すでに各企業との連携が進んでいるが、学校によっては園芸系学科において低調である。企業の開拓を各高校が協力して推進し、生徒の進路実現を図りたい。

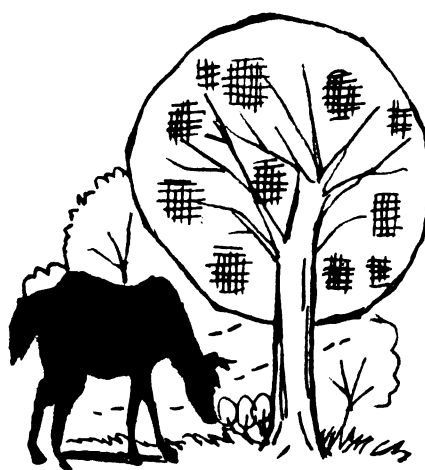
- ・地域との連携活動の協力推進

各校において、公開講座・福祉施設・小中学校との連携等が実施されている。その成果と問題点の検証を各高校単位にとどまらず、類似した取り組みにおいて徹底する必要がある。その上で、より効果的な協力した方策を提示しなければならない。

②各校主任層の連携推進

農場主任会議は定例化した、今後は教務主任、生活指導主任、進路指導主任等の連携の場を設定する余地がある。無論、学校課題の解決には農業科高校のみの連携に止まらないが、専門教育の改善のために日常的な連携を主導したい。

以上の諸点を実現するには、何よりも教頭が活力を持たねばならない。本年度も、各教頭は各校の課題を抱えつつ毎回の農業科教頭会に参加していた。以前に比して教頭同士の肉声が多量に感じられる。しかし、お定まりのスケジュールを消化するのみでは、本会の意義は乏しい。農業教育の振興発展という志をもって取り組みたい。



農業科常任幹事 吉兼元幸（園芸）記

6. 研究部会報告

1. 管理運営研究部会

平成13年度の管理運営研究部会は、第一委員会を安藤九二男教頭（松が谷）、第二委員会を大倉範幸教頭（第四商業）に委員長をお願いしてスタートした。

公立学校に対する都民の信頼を回復するため、学校改革・教育改革の施策が矢継ぎ早に打ち出されている。一方、職員団体は、それに拮抗する形で東京都教育委員会への反対運動が続いている。その軋轢の中で必死に改革へ取り組んでいるのが、管理職の状況である。例えば、人事考課に関わる様々な対応である。自己申告書の指導や面接、授業観察、業務評価等々。また、管理運営規定に則った組織の確立、日常的に発生する事件・事故・苦情への対処、さらには、週五日制への取り組み、総合的学習や教科「情報」のカリキュラム編成とその内容の検討、特色ある学校づくりの推進、また、本格実施された学校運営連絡協議会の具体的な運営等もある。事細かに書き出せば際限がないほど、教頭として扱う事柄は多様であり多岐に亘っている。

学校により差違はあるとはいえ、学校経営における実務者としての教頭の職務内容には、どの学校においても共通する課題と責任がある。教頭研究部会の意義がここにある。課題解決のための多くの情報・観点・意見が共通のものとして必要とされるのである。

今年度から、教頭研究部会への参加が出張として認められなくなった。そのため教頭が学校を離れることは従来より一層難しくなった。その結果、研究部会の運営を担う委員長の苦労がさらに増すことになった。このような状況の中で、第一委員会では、この解決を図るための新たな手段を講じた。第二委員会では、今年度の全国大会発展のために、委員会の総力を挙げて取り組んだ。関わらざるを得ない者の苦労を、すべての教頭が認識するべきと強く思うところである。

さて、始めに第一委員会であるが、全国大会のテーマを「教頭の職務－情報管理と人事考課について…」と置き、事案決定及び新たに導入された人事考課制度について、アンケートを地道に実施しながら、分析と研究を進めてきた。

全国大会は平成13年7月25日及び26日の両日、

長崎で行われた。針馬利行教頭（練馬）が発表された。詳しくは『第40回全国高等学校教頭会総会・研究協議大会集録（No.38）』を参照してほしいが、パソコンを持ち込んでの説明であった。時間の関係から、人事考課制度に説明を絞らざるを得なかったが、新しい制度は参加者の関心を惹き、熱心な質問を受けた。

第一委員会は、先に触れたように「教頭会活性化」のために、安藤九二男委員長が新たな体制づくりに取り組んだ。FAXを活用しての情報の共有化である。参加者が少ない状況でも、多くの情報を集めようという積極策である。きめ細かい配慮に基づいた熱い思いを、第一委員会の文中から汲み取ってほしい。

今年度の都立高等学校教頭研究協議会は、平成13年9月7日（金）の午後1時15分から東京都教職員研修センターで実施された。第一委員会は、開かれた学校づくりを基本テーマに「学校運営連絡協議会について」と題して提案・説明が行われた（提案者は粕江の伊藤清教頭）。本格実施に向けての観点と課題を整理したものである。第二委員会は、全国大会と同一テーマであるが、『研究集録第28号』は、全国大会の集録に比し、より詳細にデータが集録されている。両発表とも、大いに参考となる資料である。ぜひ活用してほしい。

末尾であるが、今年（平成14年）1月に第二委員会委員長・大倉範幸教頭が急逝された。突然の訃報に心の動揺を抑えることができなかった。大倉先生の生前の姿が脳裏に浮かび、ことばに尽くせぬ寂しさに満たされる。痛恨の極みとしか言いようがない。ご家族の寂しさ、悔しさ、空しさはいかばかりであろう。お悔やみを申しあげるとともに、先生のご冥福を心からお祈りする。

部長 平山順一（調布南）記



第1委員会（学校管理関係）

【研究班を中心とした研究体制づくり】

昨年度、山口正光都教頭会会長から提示のあった「教頭会活性化のために」を受け、今年度は新たな研究体制を提案し、活動に取り組むことにした。すなわち、限られた人によるものではなく、誰もが参加・協力できる研究体制を提案したのである。具体的には、情報の共有化を重視し、加重にならない役割分担を図り、適切な活動を維持させることである。

平成14年度は全国教頭会（富山県）の発表もある。本年度は、そのためにも充実した活動を進めたいとの思いからである。

〈管理研合同委員会〉

4月23日（月）午後3時 都立荻窪高校で管理研第1・第2委員会の合同開催により今年度の活動をスタートさせた。

〈準備会〉

5月29日（火）午後4時 狛江高校

委員長（安藤：松が谷高）、副委員長（関間：世田谷工高）および本年度の都教頭会研究協議会での発表予定者（伊藤：狛江高）の3名で集まり、第1回委員会の開催準備として、主につぎの2項目を相談した。

①教頭経験年数別による役割分担をつくり、「研究班（教頭歴1～3年目の全員、正副委員長および4年目以上の有志）」による研究活動の推進と、全所属委員が支援・協力する体制づくり。

②本年度の活動内容および活動日程（案）。

〈第1回委員会〉

6月28日（木）午後2時半 神楽坂エミール

参加者は6名（北林：砧工高、田中：板橋高、浦部：東大和高、伊藤、関間、安藤）であった。

上記の①②を承認すると共に、全国教頭会で発表する研究主題を「学校運営－企画調整会議と主任－」（仮題）と決定した。

【FAXによる情報の共有化】

第1回委員会の参加は、6人と少数であった。その後の委員会・研究班においても参加者は5名前後で、昨年までと大差のない状況であった。ただ昨年度までであれば、集まった者だけで細々と活動を続けたが、今年度は、本文の冒頭で述べたとおり、違うのである。

今年度重視したのは、本委員会の全所属委員40名に対する情報の共有化（周知）である。これは、FAXのマルチ送信を用いれば、簡単にできることであり、返信（回答）もFAXでもらえば手取り早いし、確実である。

1回目の全所属委員へのFAXは、6月5日に送付した。内容は「管理研第1委員会（第一回）」のお知らせと研究体制の確立についての提案である。

2回目は、7月5日に送付した。第一回委員会の報告、「研究班会議①（7/24）」のお知らせおよび本年度用アンケートの作問（1人10問を目安）の呼びかけがその内容である。このときの返信は、締切日の7月23日までに13名から届いた。その内容は、アンケート案を検討する上で十分な量であった。これにより、委員会には出席していなくとも、研究活動に参加・協力する人員の幅が大きく広がった。本年度目指した体制が早々につくれたと評価している。

このようにして、「学校運営－企画調整会議と主任－」を主題とした本年度のアンケートの作成は順調にスタートしたのである。

【研究班による研究の推進】

〈研究班会議①〉

7月24日（火）午後3時 狛江高校

参加者は6名（高橋：府中工高、北林、浦部、伊藤、関間、安藤）であったが、前日までにFAXで送られてきた13人からの「案」があるので、会議は充実したものとなった。

その検討結果をまとめた「アンケート（第1検討資料）」をこのときの6名にFAX送付し、点検・修正を加え、「アンケート（第2次検討資料）」を作成した。これを次の「研究班会議②（8/22）」のお知らせと共に、全委員へ3回目のFAXとして送付した。

このFAXに対する返信は16名からあった。本委員会の構成委員40名の1/4に相当する人数である。

【参加者が少なくても、研究は進む】

〈研究班会議②〉

8月22日（火）午後3時 狛江高校

この日は、台風11号の通過により日中は暴風雨であった。そのためか、参加者は4名（北林、伊藤、関間、安藤）と、今年度の最低を記録した。しかし、16名からのFAXが大きな力づけ

となり、またまた充実した会合となった。

かくして出来上がった「アンケート（第3次検討資料）」を再びこの4名にFAX送付し、点検・修正して「アンケート（第4次検討資料）」とした。これを経過報告と共に、全委員へ4回目のFAXとして送付した。これに対する返信は、16名から届いた。（送信者の顔ぶれは、前回と5人ほど入れ替えがあった。）

〈第2回委員会〉

9月25日（火）午後3時 狛江高校

この日の参加者も5名（浦部、高橋、伊藤、関間、安藤）と少なかったが、返信のFAXが心強く、「アンケート」は順調に完成した。

【アンケートの実施と集計】

10月11日（木）の総務部会で学区常任幹事に「アンケート」を預けた。それを、10月16日（火）の教頭連絡会で本委員会の「連絡委員」に渡してもらい、「連絡委員」から各学区の教頭（副校長）に配布するよう依頼した。

回収は12月の教頭連絡会で行ったが、今年度は、「連絡委員」の先生方に各学区分の集計もお願いした。理由は、集計作業の分担化が主であるが、併せて、集計作業を通して「連絡委員」が感じたことを発表原稿の作成の際に生かしてもらいたいからである。

1月10日締切りで、165回答（回収率79.3%）が集まり、集計された。グラフ表示、分析、発表原稿作成と、本委員会の活動は、いよいよ佳境に入っていく。

【教頭研究協議会（9月7日）】

今年度の研究と平行して、秋の教頭研究協議会の発表準備も例年通り行ってきた。研究発表のテーマは「開かれた学校づくりー学校運営連絡協議会の運営についてー」である。提案者は伊藤（狛江高）、司会は山中（羽田総合高）・山野井（小川高）、記録は北林（砧工高）・星野（白鷗高）が担当した。当日の本委員会からの出席者は27名（出席率67.5%）と芳しくなく、残念である。この研究協議会が、「出張」から「職免」になったものの、我々が創り出す年1回の研究協議会であるのだから、我々の手で盛り上げていかなければ、誰がやるというのだろうか。

来年度は、せめて本年度を上回る参加をお願いしたい。

委員長 安藤九二男（松が谷高）記

第2委員会（職務・待遇関係）

第1回管理運営部合同委員会

平成13年4月23日（月）

都立荻窪高等学校・会議室

1. 平成13年度役員選出

研究部長 平山順一（調布南）

第1委員会委員長 安藤九二男（松が谷）

第2委員会委員長 大倉範幸（第四商業）

2. 確認事項

全国大会の発表 第2委員会が担当

発表者 針馬利幸（練馬）

テーマ「情報管理及び人事考課について」

管理運営研究部第2委員会は発足以来教頭の待遇改善・職務の在り方について研究を行っている。全国大会では、「情報の管理及び人事考課の導入について」の調査と分析が研究の主題である。平成12年度に全日制都立高校207校の教頭にアンケート調査を実施し、集計後に分析と考察を行った。「人事考課」のアンケートの最終集計が3月末に終了し、分析と考察の後に研究のまとめについて慎重に協議を行った。

5月の研究協議会までに発表原稿の内容について骨子をまとめその結果をファックスでのやりとりで作成していくことを確認した。

月例の研究協議会の出席扱いが、今年度より職免になったことについての月例会の対応を検討した。

第2回研究協議会

平成13年5月1日（火）

都立荻窪高等学校・会議室

主に人事考課について分析と考察を行った。

第3回研究協議会

平成13年6月7日（木）

都立荻窪高等学校・会議室

全国大会の発表原稿の紹介

全国大会の発表内容の協議

第4回研究協議会

平成13年6月28日（木）

都立国際高等学校・会議室

・平成14年度の研究の進め方について

・研究テーマの検討

平成13年度都教頭会研究発表の取り組み

役割分担

発表者 針馬利幸（練馬）

会場責任者 大倉範幸（第四商業）

大矢保雄（粕江）

司会 岩崎充益（荻窪）

記録 古山光久（大泉北）

竿田 豊（向島商）

全国高等学校教頭会研究協議会

平成13年7月25日（水）～7月27日（金）

・事案決定について

・人事考課について

全国に先駆けて東京都の実施について各道府県より大変注目を浴びた。

第5回都教頭会研究協議会

平成13年9月7日（金）

東京都教職員研修センター

全国大会と同一テーマで発表した。

第6回研究協議会 平成13年10月22日（月）

都立国際高等学校・会議室

平成14年度の研究の取り組み

研究テーマに基づく項目の設定

第7回研究協議会 平成13年11月29日（木）

都立国際高等学校・会議室

平成14年度研究のアンケート 調査用紙素案作成

第8回研究協議会 平成13年12月14日（金）

都立国際高等学校・会議室

平成14年度研究アンケート用紙の作成

研究の進め方

役割分担の明確化

第9回研究協議会 平成14年2月8日（金）

都立国際高等学校・会議室

平成14年度研究の推進

アンケート用紙の配布と回収についての方法と役割分担

今後の研究の進め方

第10回研究協議会 平成14年3月1日（金）

アンケート用紙の集計

今後の研究の進め方

本年度は研究会の出席が職免扱いになったため研究推進のための情報交換は勤務が終わってから校外で個人的に実施せざるを得なかった。

・委員長大倉範幸先生は平成14年1月15日に逝去されました。慎んで哀悼の意を表します。
大矢保雄（粕江）が代って記しました。

2. 高校教育研究部会

平成13年度の本研究部会では、昨年度に引き続き第一委員会、第二委員会の合同委員会形式で開催した。

地理的に好都合の会場の確保が困難であること、研究部会への参加が出張から職免となったこと、種々の課題が山積し、学校から出ることが難しくなってきたこと、研究部員そのものの活動への関心と意欲の希薄化等々により、参加者が激減している状況の打破を図るための方策である。

結果として、第一委員会の教育課程、第二委員会の教育対策という研究課題も相互に関連するという発想から、出席者全員で、両者の課題を考察するというシステムが定着した。

さらに、研究課題を全研究部員の共通のものとし、研究部会に対する意識を一層高めていただくために、本年度より、学区連絡係にアンケート調査の各学区の集計を依頼し、その結果から浮き彫りにされる課題を各委員長に集約するという方式をとった。

また、9月から、教頭連絡会終了後、連絡係の呼びかけで、各学区のミニ研究部会を開催し、本年度の研究テーマから来年度のテーマに引き継ぐ課題や新たな研究テーマ等を、短時間ながら検討することにした。この方式は、学区によりうまく機能したところ、そうでないところ等があるが、各部員の参加意識を高めるうえで有効と思われる。

以上の新方式導入は、各連絡係の協力を得ておおむね好結果であった。来年度以降も継続することが大切と考える。

さて、本年度、第一委員会では「学校週5日制並びに学習指導要領の実施に向けた教育課程編成上の対応について」研究した。中でも新たに設定される「総合的な学習の時間」「情報」について各校の検討状況や導入にあたっての問題点を浮き彫りにした研究は有意義であった。

第二委員会は、学校外における学修の単位認定について取り組んだ。特に、高校大学連携、インターンシップの取組みに対する研究は、全国大会での発表でも高い関心を得た物である。

インターンシップについては、葛飾区ではネットワーク化というユニークな取組みもあり、

来年度も引き続き研究課題としていく方針である。

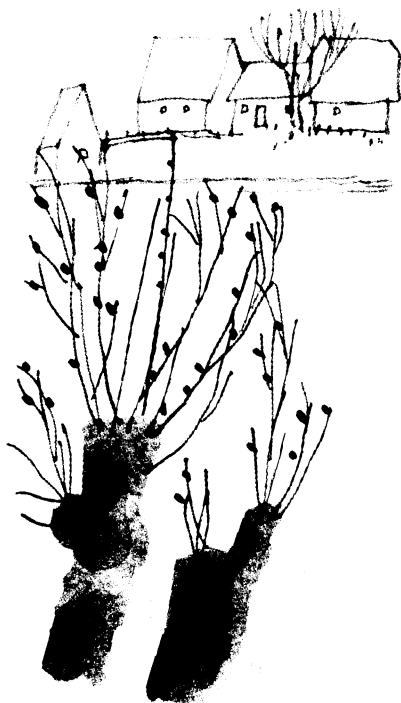
少人数ながら各自の役割を心得、毎回熱心に研究協議を重ねてきた研究部員に対し頭の下がる思いである。

研究に携わることが困難な状況ではある。だからこそ、その中で一つの成果を出すことは意味のあることであり、研究部会の存在意義があると思う。

最後に、研究を推進されてきた先生方、ご理解とご支援をいただいた校長先生方、事務局の先生方に深く感謝致します。

来年度も、従来の研究を発展的に継承し、さらに充実することを祈念して結びとしたい。

部長 村井信彦（明正）記



第1委員会（教育課程関係）

第1回委員会

平成13年4月23日（月）明正高校

研究協議に先立って、第1、第2委員会合同で平成13年度の高等学校教育研究部長として明正高校の村井信彦を選出した。さらに、委員長には武蔵村山東高校の初見豊を選出した。

この後、各委員会に分かれて協議した。新しい委員を迎えての委員会であるので、自己紹介の後、委員長から昨年度までの研究経過と、9月の教頭研究協議会での発表に向けた準備状況を報告した。

前年度末に実施したアンケートの結果を分析し、次回までに原稿の素案を分担執筆して持参することとした。

第2回委員会

平成13年5月10日（木）明正高校

教頭研究協議会での発表者を、牛込商業高校の福嶋順一と決定した。

教頭研究協議会原稿の読み合わせを行い、内容について検討を行った。原稿の締切が迫っているため、各委員が分担部分を推敲し、ファックスで委員長まで連絡することを確認した。

第3回委員会

平成13年6月1日（金）富士高校

作成した原稿の読み合わせを行い、さらに変更すべきと思われる部分を検討した。

また文章の推敲を行い、内容についてさらに協議した。

第4回委員会

平成13年6月30日（木）明正高校

前回までに作成した原稿を元に、福嶋が作成してきた教頭研究協議会発表用原稿の読み合わせを行った。

発表内容と表現について、各委員の意見を出し合い、より分かりやすい発表原稿に仕上げた。発表時の機器の使用等についても検討した。

第40回全国高等学校教頭会研究協議大会

平成13年7月26日・27日の両日、長崎県長崎市で行われた。

全国大会の発表は、第1委員会と第2委員会隔年で実施しており、今年度は第2委員会が行った。27日の発表であったため、26日の大会

日程終了後に第1・第2委員会合同で発表リハーサルを行った。

平成13年度都立高等学校教頭会研究協議会

平成13年9月7日（金）東京都職員研修センターで行われた。

牛込商業高校の福嶋順一が提案者として「学校週5日制並びに新学習指導要領実施に向けた教育課程上の対応について」の主題で発表した。

特に、各学校での「総合的な学習の時間」への取り組みについて関心が示された。前都立江北高等学校長の荒井正賢先生に、助言者としてご指導をいただいた。

第5回委員会

平成13年10月4日（木）明正高校

9月に行なわれた教頭研究協議会での、指導、助言を踏まえ、発表の反省を行った。

次に、来年度の研究課題について、意見交換を行った。13年度の研究課題であった「学校週5日制並びに新学習指導要領の実施に向けた教育課程編成上の対応について」を継続し、各学校での対応が明らかとなる平成14年度に向けてテーマを絞った調査を行い、また実践例を収集して研究を深める方向で検討することを決めた。各学区で開催される10月の教頭連絡会の後で、各学区の連絡係を中心に話し合いの時間をとり、委員より14年度のテーマについて意見聴取を行い、次回の研究部会で検討することを確認した。

第6回委員会

平成13年11月1日（木）明正高校

平成14年度の役員人事、並びに研究課題を検討した。

各学区ごとの研究課題の検討については、教頭連絡会の後に十分な協議時間がとれなかったためか、意見が十分に集まらなかった。もう一度、広く意見を聴取すると共に委員会への出席者を増やす努力を申し合わせた。

第7回委員会

平成13年12月7日（金）向丘高校

第2委員会と合同で、14年度の発表に向けた研究内容の方針について意見を交換した。

前年度の研究では未定の部分が多かった平成15年度より実施される新教育課程への取り組み状況を再調査すると共に、教育課程編成にあたって各学校がどのように特色化に向けた工夫をしているかについて、研究を深めることとした。

次回はアンケートの内容を検討することを申し合わせ、各委員が質問項目を考えて持ち寄ることとした。

第8回委員会

平成14年1月15日（火）向丘高校

アンケートの原案を元に、その内容を検討しながらさらに研究の内容を協議した。今回の協議に基づいて、アンケート案をさらに修正し、次回の委員会で完成させることになった。

アンケートは、2月の各学区の教頭連絡会で学区の連絡係を通じて回答を依頼し、2月中に回収を行う計画を立てた。その後は、各学区で集計して3月の委員会で全体の集計、検討を行う予定である。

委員長 初見 豊（武蔵村山東）記



第2委員会（教育対策関係）

第1回委員会

平成13年4月23日（月）明正高校

第1、第2委員会合同で部会を開く。最初に、今年度の高等学校教育研究部長として、村井信彦明正高校教頭を選出した。さらに、第1委員会委員長に武蔵村山東高校の初見豊を、第2委員会委員長に江戸川高校の宮田茂を選出した。

その後、各委員会に分かれて協議した。自己紹介の後、前年度委員長の村井信彦より、これまでの研究についての経過報告及びアンケートの集計結果と分析について報告があった。

今年度の全国大会の発表は、本委員会が担当し、発表者は江戸川高校の宮田茂が行うことを確認した。また、アンケートの分析をもとに、村井、宮田、小林淑訓（飛鳥高校）の3人で、発表原稿を書くことになった。

今年度より、教頭会研究部会等の活動が、職免扱いとなり、昨年度以上に出席者が期待できないのではないかとということが話題となり、委員会のあり方についての意見交換をした。本日の出席者は上記3名である。

第2回委員会

平成13年5月10日（木）明正高校

全国大会の発表を中心に協議した。資料集への掲載原稿が、締め切りに間に合わないので、研究部長が事務局に連絡することになった。

「学校外の学修」の事例研究については、「高校大学連携」（担当、小林）「インターンシップ」（担当、宮田）を取り上げることにした。

原稿については、小林、宮田で分担して原案を書き、FAX等でやりとりをして、その後村井を交えてまとめることにした。

*原稿のまとめについての協議

平成13年5月29日（火）19：00より

村井、小林、宮田の3人が集まり、これまでに、個人でまとめてきた原稿を持ち寄り、最終原稿を作成するための協議を行った。

それぞれの分担については、大筋予定通りにまとめることで合意した。原稿がだいぶ遅れているので、本日中にそれぞれの分担をまとめ、明日、村井のもとにTAIMSで送付し、村井がまとめて、教頭会事務局に提出することになった。

第3回委員会

平成12年6月1日（金）富士高校

全国大会資料集用原稿を読み合わせ、手直しを行った。「インターンシップ」については、葛飾区の都立高校6校が、共同して取り組んでいる事例が報告され、発表の際に取り入れることにした。全国大会での発表原稿を宮田が作成し、次回の委員会で協議することにした。

第4回委員会

平成13年6月28日（木）明正高校

全国大会発表原稿を読み合わせ、手直しを行った。教員時代の体験談の中に、「インターンシップ」の取り組みの必要性を強く訴えるものがあり、発表の中に入れることになった。

第40回全国高等学校教頭会研究協議大会

平成13年7月26日・27日の両日、長崎県長崎市ブリックホールで開催された。

前日25日の午後から、発表についての最終的な打ち合わせを行った。「高校大学連携」についての質問は、実施している飛鳥高校の小林が直接答えることにした。26日夜、第1、2委員会合同で発表リハーサルを行った。

26日16：00より、「学校外における学修の単位認定」について江戸川高校の宮田茂が発表し、大内克紀氏（文部科学省）、ならびに中野靖則氏（長崎県立諫早高等学校長）より指導・助言をいただいた。

平成13年度都立高等学校教頭会研究協議会

平成13年9月7日（金）東京都教職員研修センターで行われた。

全国大会に引き続いて、江戸川高校の宮田茂提案者として「学校外における学修の単位認定」について発表し、前北多摩高等学校長石井明氏に指導・助言をいただいた。

第5回委員会

平成13年10月4日（木）明正高校

9月7日に行われた教頭会研究協議会での指導・助言を踏まえて研究発表の反省を行った。

その結果、来年度の研究課題は、「学校外の学修」を継続したテーマとし、特に「高校大学連携」「インターンシップ」「ボランティア活動」といった、学校外の機関と連携した教育活動を重点的に調査・研究するといった意見が出された。

また、今後の委員会のあり方について話し合

われ、各学区の教頭連絡会の後に、第2委員会のメンバーでの話し合いを行い、その結果を連絡係から次回の研究部会に報告してもらうなど、委員会の活性化に向けた意見が出された。さしあたって、来年度の研究課題について上記の方法をとることにした。

第6回委員会

平成13年11月1日（水）明正高校

第1委員会と合同で、来年度の役員人事及び研究課題について協議した。

各学区ごとの研究課題の検討結果については、6学区より葛飾区の高校が共同で進めている「インターンシップ」について報告があったが、それ以外の報告はなかった。再度、各学区から広く意見を聴取するとともに、委員会への出席を促すよう努めることにした。

第7回委員会

平成13年12月7日（金）向丘高校

第1委員会と合同で、来年度の研究内容の方向性について意見を交換した。

平成15年からスタートする新学習指導要領に基づいた取り組みの中で、「学校外の学修」を学校に定着させることは重要な課題であり、とりわけ「インターンシップ」等、学校外の機関との連携をもとにした体験的学習は重要であるということで一致した。

今回はアンケートの内容を検討することを申し合わせ、各委員が質問項目を考えて持ち寄ることにした。

第8回委員会

平成13年1月15日（火）向丘高校

アンケート原案をもとに、その内容を検討しながら研究内容について協議した。

その結果、「高校大学連携」「インターンシップ」「ボランティア活動」に絞ったアンケートを実施することとなり、アンケート案をさらに修正し、次回の委員会で完成させることとなった。

また、アンケートは2月の教頭連絡会で、学区の連絡係を通じて回答を依頼し、2月中に回収を行うことにした。その後、各学区連絡係が集計し、3月の委員会で全体を集計し、検討を行うこととした。

委員長 宮田 茂（江戸川）記

3. 生徒指導研究部会

少子化・高齢化・情報化・国際化など様々な変化が進行する中で、生徒の能力・興味・関心・進路希望等は多様化し、登校拒否や中途退学・原級留置の問題が増加するなど学校が直面する生徒指導上の課題は極めて多い。

こうした状況の中で、伸び伸びと学ぶことができる環境を整え生徒にとって魅力ある学校づくりを進めるには、生徒の指導に直接係わる教師一人ひとりが生徒指導の重要性を認識し、地域や保護者との連携を深めながら、生徒や学校の実態に則した弾力的で柔軟な指導形態を導入することが必要である。ここに教頭としてのリーダーシップが求められている。

今年度の生徒指導研究部会は、21世紀の高校教育の創造をテーマに「高校教育の改革推進計画」を踏まえ、魅力ある都立高校の実現を目指してより実践的な研究協議を重ねた。

第1委員会（生徒指導・進路指導について：委員長梶野茂男・桜町高）は、カウンセリング・マインドを研究テーマにその実態を考察し、カウンセラー派遣校の様子や教員の意識の変化、カウンセリング・マインドの定着状況など調査した。その成果は、今年9月の東京都立高等学校教頭会研究協議会第5分科会で「カウンセラー派遣校に於ける教員の意識の変化」をテーマに掲げ発表された。

9月以降は、カウンセラー派遣校に於けるカウンセラーの経験や資質の問題、派遣前と派遣後のカウンセリング・マインドの定着状況などをさらに細かく考察するため、研究部会にカウンセラーを講師として招き熱心な討議を繰り返している。

一方、第2委員会（教科以外の教育活動について：委員長大山憲昭・八王子工業）は、今年の第40回全国高等学校教頭会研究協議大会（長崎大会）で全国発表を行った。第2委員会では、生徒の多様化に伴い、各学校で直面している様々な生活指導の実態とそれに係わる教頭のあり方を考えようと、地域・保護者との連携を深めた生徒指導の体制と実態について研究協議を重ねてきた。

全国大会では、ホームルーム指導とそれに関わる保護者の対応に焦点を当て、「実態調査か

ら見たホームルーム運営と保護者の関わり」をテーマにアンケート調査の集計結果をもとに考察した研究成果を発表した。

また、9月の東京都立高等学校教頭会研究協議会第6分科会で「保護者との連携による生徒指導の可能性」をテーマに発表し、多様化した生徒を指導するには保護者との連携・協力は不可欠であり、そのためには何よりも学校と保護者との信頼関係を図ることが大切であることを報告した。

生徒指導研究部会は、これらの調査研究の結果を活用し、より一層教頭の見識を高めようと努力しているが、ここ数年研究活動に参加する教頭が年々少なくなっている実態がある。とくに1年目・2年目の教頭の参加がほとんどみられず、今後の研究活動を発展させていくことに大きな不安を抱いている。

平成13年度から指導部は、教育委員会主催の校長連絡会や教頭連絡会を設置した。その関係からか教頭研究協議会は指導部主催から教頭会主催に変わり、それとともに教頭会の活動に関わるサービスの取扱いも変更された。今までは、東京都の教育行政に有用であると判断できる教頭会のような自主的な研修や研究活動、会の機関運営に関わる活動はすべて出張として取り扱われていたものが、今年からはこれらの研究活動のサービスの取扱いは職免となってしまった。

今でさえ参加の少ない現状の中で、このサービスの変更は研究会の運営にとってきわめて厳しい現実である。研究会としても、今後の研究活動や機関運営、連絡体制、研究場所等をどうするか、直面した課題は大きい。

生徒指導研究部会では、これからも生徒の実態に即した今日的な課題を積極的に取り上げ、生徒指導を含めた学校運営に教頭がリーダーシップを発揮できるようさらに活発な研究協議を重ねていくつもりである。教頭会研究部会の実績を今後も継続できるよう、少しでも多くの教頭がこの研究会に参加し、研究協議できる状況が一日も早く実現することを切に望みたい。

部長 坂本文樹（昭和）記

第1委員会（生活指導関係）

1. 苦境に立つ研究活動

数年前から、教育改革が進む中で、教育現場の第一線に立つ教頭の研究活動が著しく困難になって来ているように思う。

特に昨年度は、授業観察と自己申告書の面接指導が年に3回も入ることになり、教頭の多忙化が更に進んでいる。このこともあって、研究部会は、崩壊の危機にさらされている。

今後、『主幹制度』の定着につれ、教頭の補佐役である主幹が複数名、校内に配置されるようになれば、都教委が言うように、「教頭の管理スパンは適正なものになり」、「多忙化」も一段落するであろうと期待するばかりである。

それまでは、先輩教頭達が築き上げてきた、研究部会の活動をなんとか維持していきたい。

2. スクールカウンセラーの活用研究

第一委員会では、一昨年の秋以降、スクールカウンセラーの活用法と教頭の役割について、全国大会での報告をにらみ、2年間のスパンで研究を続けてきている。

1年目は、スクールカウンセラー（以下SCと略す）配置校の報告書を集めて、導入に成功した事例や、失敗した事例について検討した。その研究成果は、昨秋の教頭研究協議会で報告済みなので、参照して欲しい。2年目については、SCを委員会にお招きすることを主眼点とした。SC活用調査報告書だけでは分からない導入校でSCが直面していた現場の実態や、SCと高校側との連携のあり方や、教頭が果たす役割などについて心の専門家としてのアドバイスを期待したのである。

結局、3回に渡り3人のSCの方を講師としてお招きした。参加者は、5人、8人、4人と少なかったが、どの回も豊かな内容の素晴らしい研究会であった。ここで、委員会の設定について少し外的事情にも触れて振り返ってみることにする。

3. 委員会活動の時間設定と場所

昨年度迄は、生徒指導研究部会は、合同ではば月に1回程度、神楽坂にあるエミールの1室を午後2時頃から2～3時間程度借りて実施し

ていた。ただ、第一委員会と第二委員会とも、出席者は少なく、併せて10名を越えることは稀な状況が続いた。そして通常は、情報交換等をした後で委員会毎に分かれて部会を開いていたのである。

ところが、都教委の通知により、4月から校長会同様に、教頭会でも研究部会への出張が認められなくなり、職免と言うことで、ますます学校を出にくくなり、各委員会も2時からの会合の設定が困難となり、各々別会場で実施することにしたのであった。この事情が、本委員会の例年並の開催を困難にしたのである。

他方、都教委が主催する教頭連絡会は、従来通り出張が認められていることもあり、殆どが出席しているものの報告事項ばかりが緻密になるばかりで、各学校の情報交換の場となる協議が形式化してきている。

4. 充実した内容の例会なのだが

委員会を実施できたのは、3回に止まった。

1学期は、教頭研究協議会での報告づくりに終始し、第1回目は、夏季休業中の8月16日の2時から5時近く迄桜町高校で実施した。お盆休み期間中と言うこともあり、参加者は5名。2回目は11月1日の6時から8時迄、代々木高校で8名が参加して実施した。3回目は2月1日の午後6時半から8時半に市ヶ谷商業高校での実施を予定した。当初の参加予定者は9人へのぼったのだが、2月1日は、教科課程調書のTIMESでの送信に加え、臨時の校長連絡会が5時過ぎに入ったこともあり、当日の参加者は4人に止まった。毎回とも新しい参加者があり、話の内容は充実していただけないに本当に残念であった。

5. 成果と課題

外部講師を呼んだのは成果だった。これにより、例年になく会議の内容が豊かになった。反面、授業観察や学校運営連絡協議会の設定・連絡等日常業務が多忙な中では講師連絡も思うにまかせず例会の設定が責任者の負担になった。委員会の主要メンバーでの役割分担と学区連絡委員の活用と新しい会員の育成が今後の委員会運営の大きな課題である。

委員長 梶野茂男（桜町）記

第2委員会（教科外活動関係）

本委員会の最大のネックは、委員会（研究会）への出席者が極端に少ないことであった。私も勤務している第7学区の教頭連絡会の席上、何度と無く出席を呼びかけた。しかし、既に昔研究したから等と体よく断られるばかり。生徒の部活動に幽霊部員がいると同じく、私達の委員会にも名だけ登録していた人たちが沢山いた。

それに加えて昨年度の2月から3月にかけて、もう教頭会は無くなる、研究会もどうなるか分からない。風前の灯火という先行き不透明の中で研究を始めていった。必ず出席してくれるメンバーは5～6名、しかもそれぞれの勤務校が、これまたよく散らばっている。少ないメンバーであるにもかかわらず、研究会をまともに開くこと自体も相当きつかった。私がこの様なことをくどくどと書いている理由は、皆さんに研究会の意味や持ち方を考えて欲しいからである。

今回は第何委員会が全国発表、よって来年はどこそこの委員会が発表。なんでもこのような申し渡しがあるやに聞いているが、本当にこのスタイルで良いのか。あるときには発表のための研究会かと疑問符を出したときさへある。また出席者が何でこんなに少ないのか。魅力が無いから？ 出られる人がやれば良いと思っている人が多いから？

そもそも教頭会の研究は何を目指して、誰のために行うものなのか、また今求められている研究テーマはどんな種類のものなのか、みんなですら再考する必要がある。

ところで、ここで私達の誇りを一つ述べさせて頂く。私達は「仕事優先」を貫いた。職免申請は提出せず、勤務時間が過ぎた5時30分以降に勤務校を出発、会の開始は早くても6時30分、メンバー全員がそろえるのは、7時30分以降が常であったが。この話をする、文明の利器を使え、FAXや電子メール、電話があるじゃないか、と言う方がいる。しかし、この方法だけに頼るわけにはいかない。やってみて分かったこと、それは、この方法では特定個人にしわ寄せがいくというということである。私達はあくまでも共同研究という立場を貫きたかった。また研究会は何人かでも集まって額を寄せ合って初めて妙案が浮かんでくる。新しい発想が生

まれてくるものである。

新年度には幽霊部員のいないことを切に願い、研究経緯に入っていく。

5月1日 会場：都立八王子工業高等学校

平成13年3月に全全日制都立高等学校PTA役員対象に実施したアンケート結果を分析。

票で集計できる部分はグラフ化、文章で応えて頂いた部分は、できるだけ多くの意見を集約した文章を読み上げ録音、テープ起しは次回までの宿題にした。

5月22日 会場：都立八王子工業高等学校

全国高等学校教頭会・全国大会研究発表原稿の検討。グラフから読みとれることと文書回答にしっかり整合性がとれていることに一同、改めて納得。前もって用意してきた原稿の骨組みから改変していった。しかし、今思い起こして残念に思うことは、せっかく一生懸命記述していただいたPTAの皆様の全員の意志を取り上げられなかったことである。ご協力頂いたPTAの皆様には、ここに謹んでお詫び申し上げます。と同時に私達はアンケートの弱点を身を以て体験できた日でもあった。

6月4日 会場：現職研修センター

全国高等学校教頭会・全国大会研究発表に当たっての重点項目と予想される質問に対する回答の検討。再度アンケート結果から読みとれる内容とその裏付けを確認した。裏付けには文書回答が極めて有効であった。そして、予想される質問とそれに対する委員会としての回答を練り上げていった。

8月31日 会場：都立松原高等学校

東京都立高等学校教頭会・研究発表の内容検討。私達が予想される質問、なぜそれが出てくるか。そこから話し合いが始まった。他県ではまだ未実施、ないし試行段階だから、そう結論づけると、回答も見えてきた。

9月6日 会場：都立松原高等学校

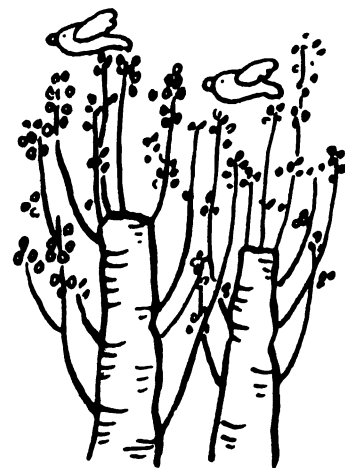
東京都立高等学校教頭会・研究発表に当たっての重点項目と予想される質問に対する回答の検討。東京都立高等学校教頭会・研究発表での

発表者を全国大会と交代。発表者が変わると、見える内容に微妙な違いのあることが分かった。そこからまた新しく議論が始まり、さらに一層みんなで練り上げた原稿という仲間意識も育ってきた。

12月15日 会場：都立松原高等学校

次年度の東京都立高等学校教頭会・研究発表の内容を検討。集まったのは3人。しかし、おおかたの粗筋をつけた。うれしかったのは、当日出席出来なかったメンバーが、後日互いに連絡取り合い、私達とは別の研究テーマを検討してしてくれたことである。題材が増えた。どちらの骨組みに組み込んでも、間違いなく内容濃い研究になりそうな予感がした。

委員長 大山憲昭（八王子工）記



7. 会 員 異 動

平成12年7月1日～平成13年5月31日の異動は次の通りである。

退職者（11名）

平成13年3月31日発令

学区	校 名	氏 名	備 考
1	蒲 田	矢 嶋 紀 明	
3	荻 窪	寺 嶋 幸 子	会計監査
3	中 野 工	齊 藤 信一郎	
3	四 谷 商	島 貫 孝	
6	葛 西 工	逆 井 満 吉	工業常任幹事
7	町 田 工	田 島 富 男	
8	農 林	小野里 哲	
9	武 蔵 野 北	上 林 勇	副会長
9	小 金 井 工	近 藤 國 男	全国会長
9	田 無 工	矢 崎 功	
10	府 中	山 口 正 光	会長

校長栄進者（33名）

平成12年4月1日発令

学区	現 任 校	氏 名	前 任 校	備 考
6	本 所	山 本 理 一	市ヶ谷商	平成12年7月1日発令
3	第 四 商	藤 井 正 俊	荒 川 商	平成12年10月1日 "
平成13年4月1日発令				
2	桜 町	山 室 修 次	南 平	
	千 歳	島 宮 道 男	都 立 大 付 属	
3	鷺 宮	戸 谷 賢 司	羽 田 工	
	武 蔵 丘	樋 野 清 治	北 園	
	荻 窪	辻 勇一郎	紅 葉 川	
	豊 多 摩	木 部 貞 善	芸 術	学区幹事
	練 馬	苗 村 深	八 潮	
	光 が 丘	緒 環 三 雄	野 津 田	
	大 泉 北	斎 藤 眞 理	小 平 西	
	大 泉 学 園	佐々木 孝 志	農 芸	農業常任幹事
	田 柄	武 山 洋二郎	羽 田	高校研第1委員長
4	北 豊 島 工	本 間 豊	長 研 生	
5	足 立 西	湯 浅 友 功	長 研 生	
	荒 川 商	塚 内 恒 司	篠 崎	
6	東	白 木 和 敏	清 瀬	管理研部長
	葛 西 南	佐 藤 榮	竹 台	
6	紅 葉 川	奥 村 美恵子	志 村	
	向 島 商	齊 藤 光 一	葛 西 南	
	葛 西 工	木 暮 守 雄	蛟 洲 工	
7	富 士 森	佐 藤 公 作	青 梅 東	
	町 田	安 保 尚 子	長 研 生	
	小 川	河 村 晴 子	片 倉	
	松 が 谷	栗 岩 淳 一	長 研 生	
	忠 生	松 本 隆	白 鷗	

学区	現任校	氏名	前任校	備考
8	多摩	坂田敬一	日野	
	拝島	明石健一	小金井北	
	東大和南	田中政美	松原	
	多摩工	橋本三男	小石川工	工業幹事
9	小平	堀江忠道	桜町	
10	氷山	富岡康夫	八王子北	
11	八丈	佐野幹男	農産	
平成13年5月16日発令				
2	深沢	須藤勝	大泉	

教 頭

学区	現任校	氏名	前任校	備考
4	牛込商	福嶋淳一	杉並	平成12年4月10日発令
2	世田谷泉	原田明	世田谷泉	平成12年4月10日 "
2	市ヶ谷商	大田原弘幸	町田	平成12年7月1日 "
3	羽田地区総合	山中豊	羽田	平成12年8月1日 "
5	荒川商	大本静代	八潮	平成12年10月1日 "
6	科学技術	鹿目憲文	化工	平成12年10月13日 "

全日制間の転任（15名）

平成13年4月1日発令

学区	校名	氏名	前任校	備考
1	日比谷	柴田哲	大島南	
	蒲田	大河内保雪	深沢	
2	桜町	梶野茂男	城北	
3	小石川工	石坂政俊	化学工	
4	荻窪	岩崎充益	秋川	
6	志村	服部伴文	北豊島工	
7	紅葉川	大澤紘一	南葛飾	
	松が谷	安藤九二男	第二商	
	第二商	渡邊博史	秋川	
7	南平	河上正道	瑞穂農芸	
8	武蔵野北	塩澤幸雄	代々木	
	瑞穂農芸	相良健二郎	奥多摩	
9	清瀬	平田晃	大崎	
	小金井北	押尾勲	八丈	
10	狛江	大矢保雄	八王子高陵	

定時制等からの転任（24名）

平成13年4月1日発令

学区	校名	氏名	前任校	備考
1	大崎	大平一男	一橋	英
2	都大附属	松野下健	日比谷	保体
	芸術	茂泉吉則	教育庁	日史
	千歳丘	田中賢二	小松川	生物
3	西	吉澤郁生	城北	数
	農芸	浅井嘉平	農林	地学
4	北園	佐藤克芳	隅田川	地理
	北豊島工	佐藤清親	王子工	美

学区	校 名	氏 名	前 任 校	備 考
5	竹 台	島 田 悦 郎	両 国	保体
	荒 川 工	酒 井 定 克	小 石 川	化学
6	隅 田 川	及 川 良 一	九 段	倫理
	葛 西 南	小 林 洋 司	荒 川 商	政経
	篠 崎	永 井 克 昇	牛 込 商	商業
	葛 西 工	森 健	世 田 工	応化
	南 葛 飾	三 宅 英次郎	都 研	英
	農 産	田 中 平 一	農 芸	農業
7	日 野	北 澤 道 夫	大 森	数
	片 倉	小 田 茂	教 育 庁	英
	八王子高陵	長 津 平 二	杉 並	保体
	八王子工	清 水 一 幸	三 鷹	化学
	小 川	山野井 高 男	新 宿 山 吹	政経
8	農 林	原 田 晴 夫	教 育 庁	地理
9	小 平 西	柴 田 英 男	武 蔵	日史
10	府 中	木 暮 正 利	南 多 摩	日史

新任（25名）

平成13年 4 月 1 日 発 令

学区	校 名	氏 名	前 任 校	備 考
1	八 潮	山 下 勇 人	南	国
2	松 原	渡 邊 英 信	新 島	国
2	深 沢	石 島 勇	牛 込 商	国
	小石川工	小 林 晶 代	上 野	化学
	砧 工	北 林 敬	久 留 米	国
3	四 谷 商	高 橋 信 雄	台 東 商	商
	中 野 工	奈良井 潔	城 北	国
	杉 並 工	横 山 芳 夫	葛 西 工	政経
5	白 鷗	星 野 祐 史	工 芸	国
6	小 松 川	根 本 清	大 島 南	英
	葛 西 工	山 田 芳 嗣	水 元	数
7	八王子東	木 下 和 彦	大 島	英
	八王子北	徳 重 隆	飛 島	数
	野 津 田	真 保 俊 哉	町 田	数
	町 田 工	平 林 博	田 無 工	建築
	町 田 工	磯 村 元 信	八 王 子 工	保体
8	青 梅 東	瀧 澤 勝	羽 村	数
	多 摩 工	清水頭 賢 二	王 子 工	政経
9	小 金 井 工	北 川 昇	中 野 工	食工
	田 無 工	下 條 隆 史	大 泉	数
10	府 中 東	橋 本 昇	大 島 南	水産
	府 中 工	立 石 武 則	本 所 工	政経
11	大 島 南	武 内 彰	杉 並	物理
12	三 宅	大塚 一雄（舎）	三 宅	地理
13	八 丈	竹 原 勝 博	足 立	保体
平成13年 5 月 16 日 発 令				
3	大 泉	奈 良 隆	大 森 東	保体
平成14年 2 月 1 日 発 令				
3	第 四 商	高 木 亀 介	小 平	保体

編 集 後 記

- ・ 平成13年度は、教頭は校内では人事考課制度や学校運営協議会をはじめ多くの取り組むべき課題があり、一層職務の内容が多岐にわたり、そのうえに、これまで出張で認められてきた教頭会の諸活動が「職免」扱いになるなど、取り巻く環境が一段と厳しくなった年として記憶に残ると思います。
- ・ それらのためでしょうか、昨年と比較して教頭会の総会をはじめとして、年2回の幹事会、4回ある総務部会などへの出席率が大幅に悪くなり、年間を通して出席できなかった役員も出てきました。
- ・ 全体を通して教頭会の活動が低調になり、総会でさえ、これまでいつでも百名以上の参加者があったのに、今年は大幅に下回りました。とくに研究部会にいたっては、本書でいろいろとふれられているように限られたメンバーが、時間と場所をなんとかやりくりして、熱意と使命感とでなんとか続けているのが多くの実態ではないかと思います。全国の高等学校教頭会の中心的存在である東京都教頭会が、はたしてこのような状態でよいものかと疑問です。
- ・ 昨年までの総務部会・幹事会などにはそのたびに教育庁の関係部署の方にご出席をいただき最近の情報をお伝えいただきました。また、年1回の四者協議会では教育庁の上層部の方々に直接要望や意見を述べる機会がありました。これらのことが教頭のモラル・アップに大いに役立っていました。今年からそれらがなくなりコミュニケーションを交わす場が少なくなりました。まことに残念なことであります。
- ・ 教頭や教頭会を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。教頭会の組織と活動形態も新しい思考に立った変化を求められていると思います。
- ・ 教頭会は研究団体です。水谷先生の講話にもありましたように「研究団体として何が提言できるか。」を基本に据え、「新しい酒は新しい革袋に」の発想で、本部役員を中心に組織を見なおして行く時期にさしかかってきているのではないかと思います。
- ・ 最後になりましたが、執筆された先生方にはご多忙の中をありがとうございました。本誌のような「会誌」の積み重ねがとりもなおさず教頭会の歴史の証人であります。事実の既述もさることながら、一人一人の教頭がその場で苦労されたり、汗をかいたりしたことが行間から読み取れるものであれば、生きた記録としての価値をさらに増すことになりえます。また、そのような会誌にしたいものです。
- ・ 「朝早くから、夜遅くまで学校にいて、黙々として土台をしっかり支えている人」…それは教頭。「よい話しは素通りして他のところへ行き、あまりうれしくない話しがよく集りやすいところ」…そこにいるのは教頭。しかし、誰れかが言いましたが、八つ頭の芋のように、《形は悪くても、味はいい》…それこそ教頭。そんな「味」に誇りを持ち、「元気を失わないように」のモットーが山場で重要になる」ことを肝に銘じて、希望と展望とをもって来年も頑張っていたきたいと願うものです。

(事務局)



横山大観 五郷先生